

がくがく 令和6年度 楽学プロジェクト ～職業のフロとともに夢を追いかける夏2024～ 講座記録集



主催：楽学プロジェクト委員会 仙台市教育委員会

日時：令和6年7月24日（水），25日（木）

会場：宮城野区中央市民センター，宮城野区文化センター，宮城野図書館

《 目 次 》

はじめに	1
消防士の仕事	2
博物館の仕事	3
獣医師の仕事	4
栄養士の仕事	5
看護師の仕事	6
アナウンサーの仕事	7
プロスポーツの仕事	8
音楽演奏家の仕事	9
建築家の仕事	10
パン屋の仕事	11
動物園飼育員の仕事	12
警察の仕事	13
ロケットエンジン開発に関わる仕事	14
スポーツトレーナーの仕事	15
医師の仕事	16
新幹線乗務員の仕事	17
パイロットの仕事	18
キャビンアテンダントの仕事	19
薬剤師の仕事	20
ゲームクリエイターの仕事	21
天文台の仕事	22
歯科医師の仕事	23
ウェディングプランナーの仕事	24
自衛隊の仕事	25
弁護士の仕事	26
農家の仕事	27
洋菓子職人の仕事	28
水族館飼育員の仕事	29
学校の先生の仕事	30
航空管制官の仕事	31
保育士の仕事	32
WEB デザイナーの仕事	33
映像クリエイターの仕事	34
音響・照明の仕事	35
花屋の仕事	36
ファッションデザイナーの仕事	37
テレビ局の仕事	38
和菓子職人の仕事	39
仙台市ジュニアリーダー活動紹介	40
令和6年度 楽学プロジェクト委員名簿	41

は じ め に

楽学プロジェクトは、仙台自分づくり教育の一環として、市内小中学生を対象に、毎年夏休みに実施している事業です。様々な職業のプロから働くことの大切さや難しさ、仕事にかける思い等についての話を聞き、体験などを交えながら将来の職業について考える機会を提供しています。

今年度も、7月24日から25日にかけて、宮城野区中央市民センターや宮城野区文化センター、宮城野図書館において、第20回目の楽学プロジェクトを実施しました。昨年度に引き続き、今年度も講座数や参加者数を拡大しての開催となりました。当日は、事前に応募した中から選ばれた市内の小学5・6年生、中学生1,162名（対昨年度比：+218名）が、計41講座（対昨年度比：+5講座）に参加しました。

次ページからの各講座の様子や参加児童生徒の思い等をご覧くださいければ幸いです。



- 過年度の様子等については、仙台市教育委員会ホームページ「楽学（がくがく）プロジェクト」をご覧ください。

<https://www.city.sendai.jp/shogaigakushu/kurashi/manabu/kyoiku/inkai/joho/kodomomuke/rakugaku.html>

（または「楽学プロジェクト」で検索）



「消防士の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 佐藤 友昭 先生，安部 望 先生，濱田 将吾 先生
〔所属〕 宮城野消防署

■ 参加人数 15 人

講座担当者 針生 真由美，河野 貴之

宮城野消防署で勤務されている3名の先生を講師としてお迎えし，消防士の仕事について詳しくお話を聞きました。後半は，救急救命の実演や警防隊が身に付けている装備品を実際に身に付ける体験活動等を行い，消防士の仕事に直に触れることができました。

1. 消防士の仕事についてのお話

講師の濱田さんより，スライドの映像を使って，消防士の仕事について詳しくお話しいただきました。消防の仕事は多岐にわたり，消火活動を行う警防隊，病気やけがをした人の救急活動を行う救急隊，人命救助を専門にするレスキュー隊，各隊への指揮や安全管理を行う指揮隊等，職務に応じた様々な部署があります。各部署の詳しい仕事の内容や1日の仕事の流れなどを，途中クイズも交えながら，楽しく学ぶことができました。



2. 消防士の体験①（警防隊）

警防隊の体験では，消火活動で使用する装備類や酸素ボンベなどを実際に装着させていただきました。総重量20kgもある装備品に子どもたちはびっくり。これらを身に付けて消火活動に当たる隊員さんたちの大変さを実感することができました。また，煙の中から救助者を発見するときに使用するサーモグラフィーを実際に使ってみたり，隊員と連絡を取るためのトランシーバーを使って連絡を取り合ってみたりと，楽しく体験することができました。



3. 消防士の体験②（救急隊）

救急隊の体験では，救急患者の体調を確認する体験として，パルスオキシメータを使って血中酸素濃度を測定したり，聴診器を使って心音を確認しました。また，訓練用人形を使って，心臓マッサージの心肺蘇生訓練を体験しました。真上から体重をかける必要があり，力加減が難しかったです。後半は，救急車の中を見せてもらい，救急搬送時の対応について学ぶことができました。



4. まとめ

消防士の仕事は，時にはくたくたになるまで消火活動を行うこともあります。でも，他人から感謝されるすばらしい仕事だと思っています。誰にでもできることではないけれど，消防士になるために特別なことをする必要はありません。学校の授業をちゃんと聞くこと，元気に運動すること，たくさん遊んだり何か熱中できることに取り組んだりしていろいろな経験を積むことを大事にしてください。（講師の濱田さんからのメッセージ）

5. 児童生徒の感想紹介

- この講座で，本当に消防士になろうと思いました。消防士になるためにすることを聞いたので，これからの日々，そのことを努力していこうと思います。（人来田小 6年生）
- 消防士の中でも，複数の役割があるのはとても驚きました。また，思ったより消防士の服が重くて，びっくりしました。（蒲町小 5年生）

「博物館の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 小田嶋なつみ先生 佐々木徹先生 永山達郎先生
〔所属〕 仙台市博物館

■ 参加人数 24 人

講座担当者 大場 俊宏

初めに博物館の仕事について教えていただきました。その後、展示物実習を行い、受講生からの質問についてお答えいただきました。小田嶋先生と佐々木先生から、仕事のやりがいや目指したきっかけについてお話いただきました。

1. 博物館と学芸員の仕事

子どもたちは、仙台市博物館以外の施設である動物園や水族館も博物館の一つだということを知り、驚いていました。博物館は、資料を集める、残す・守る、調べる・研究する、展示する・学びを手伝うという4つの役割があるということを知りました。また、博物館の仕事は学芸員以外にも庶務や警備、展示の解説など様々あり、それぞれが力を合わせているということについても学び、子どもたちは熱心にメモを取りながら話を聞いていました。



2. 体験①作業台をつくろう

湿気や水分が付かないように気を付けること、皆で協力して作業することなど、小田嶋先生から作業台の作り方について教えていただきました。作業台に使う紙は展示物の包装や紐にして使うこともあると知りました。これから始まる展示作業に向けた活動だったので、わくわくしながら楽しそうに作業し、始まってからあっという間に作業台を作り終えました。次の展示作業に向けて期待に胸を膨らませる子どもたちの姿が見られました。



3. 体験②展示をしてみよう

佐々木先生に展示の仕方や注意点について説明していただきました。絵巻物を例に、どの部分をどのようにして見せるかがポイントだということを子どもたちは知りました。また、絵巻物の紐の1つにしても、どのようにまとめるかというように、見る人も資料も丁寧に、安全に扱うことの大切さについて教えていただきました。グループ内で力を合わせて作業し、展示物を丁寧に扱い、工夫しながら展示することができました。



4. まとめ

子どもたちは、展示作業を通して見る人の関心を引き付ける工夫や注意点について体験的に学ぶことができました。最後に小田嶋先生と佐々木先生から学芸員の仕事のやりがいや目指したきっかけについて話していただきました。子どもたちの表情や感想から、自分の将来の夢に結び付けて考えられたことがよく分かりました。

5. 児童生徒の感想紹介

- 学芸員さんの説明がすごく分かりやすかった。展示の仕方を学んだことで、スライドなどの写真や文の配置についても関連付けて学ぶことができた。 (中山小 6年生)
- 博物館ではたくさんの人がいろいろな歴史や展示物に注目して展示や常設を行っていることが分かった。自分が知らない歴史を調べようと思った。 (四郎丸小 5年生)

「獣医師の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 石川 佳苗 先生、後藤 美佐 先生

〔所属〕 宮城野区保健福祉センター、特定非営利活動法人エーキューブ

■ 参加人数 27 人

講座担当者 高橋 克博

「獣医師の仕事」では、仙台市で獣医師として勤務されている石川佳苗先生と、小学校や福祉施設などで動物介在活動に携わっている後藤美佐先生を講師としてお迎えし、正しい犬との挨拶の仕方、犬の聴診の仕方、1匹で歩いている犬に会ってしまったときの行動、また獣医師の多岐に渡る仕事について教えていただきました。

1. 犬と挨拶・聴診・木になろう

「犬との挨拶の仕方」では、「触ってもいいですか」とまず飼い主に挨拶することや、大声を出さない、急に触らない、走らないなど、正しい犬との触れ合い方について学びました。

「聴診」では、動物介在活動用に訓練された犬の心臓に聴診器を当て、心音を感じていました。

「木になろう」では、もし1匹で歩いている犬に会ってしまったときは、手を体に付けて目を閉じて木のような姿勢を取り、近寄って来ても動かないことが大切であることを学びました。



2. 獣医師の仕事

獣医師の仕事は、家畜やペットを診察し、病気やけがの治療や健康管理を行います。獣医師になるためには、6年制の大学で獣医学を学び、卒業と同時に国家試験を受験して獣医師免許を取得します。卒業してからも、それぞれの分野で専門的トレーニングの期間が必要です。

仙台市の公務員獣医師の職場は、食肉衛生検査所や動物管理センター、八木山動物公園、保健所など様々あります。対象は、ヒト、様々な動物、食品や環境など多岐に渡ります。



3. 質疑応答から

Q. 犬はどんなときにストレスを感じますか。

A. におい、音、新しい場所などにストレスを感じ、追い掛けたり、吠えたり、あくびをしたり態度で表します。その犬の苦手なことを理解して、回避する工夫が必要です。

Q. 犬を飼うときに大変なことは何ですか。

A. 犬はトイレの場所への意識がないので、決まった場所でトイレをするということを教えます。散歩のときに落ちている物を食べたりすると体に悪いので、そういう行動をさせないことが大切です。

4. まとめ

獣医師が動物を診察するとき、動物と言葉でコミュニケーションが取れません。動物の状態を把握するためには、飼い主から情報収集しなくてはならないため、コミュニケーション能力が高いことが求められます。

獣医師になるためには、大学の授業で動物の実験や解剖の授業があります。それが苦手で獣医師になることを諦めた人もいます。動物の命に冷静にならなければなりません。

5. 児童生徒の感想紹介

○ 動物が好きだけではなれないことを改めて実感しました。ますます動物のことを好きになることができました。(榴岡小 5年生)

○ 獣医師になりたいと思っていて、この講座を聞いて夢に一步近付きました。これからも夢に向かって勉強をたくさんしたいと思います。(上杉山通小 5年生)

「栄養士の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 氏家 幸子 先生，星 由美子 先生，溝井 莉奈 先生
〔所属〕 元仙台白百合女子大学，仙台青葉学院短期大学，仙台白百合会カリタスの丘

■ 参加人数 16 人

講座担当者 近江 洋子

栄養士の資格を持つ3名の先生を講師に迎えて、ライフステージに合わせた食事や栄養バランスを考えた食事を作ることを実践を交えながら学びました。

また、講師の先生方が栄養士を目指したきっかけや仕事のやりがいなどについて、お話を聞くことができました。

1. 栄養士の仕事について

栄養士や管理栄養士の資格を持つ方々は、学校や病院、スポーツクラブ、研究機関など、身近にあるたくさんの施設や機関で働いているとのことでした。

栄養士＝給食の先生をイメージしていた受講生たちは、栄養士や管理栄養士が、様々なライフステージにおいて、その資格を生かして活躍することができると学びました。

飲み込む力についての実践学習では、持参した飲み物にとろみ粉を加えて飲み、のど越しの違いを実感しました。



2. 栄養士になるためには

栄養士を目指したきっかけは、どの先生も自分や誰かのために食事を作ることが好きだったからとのことでした。

特に、人と話すことが好きな人や、自然や環境について関心がある人は栄養士の仕事に向いているそうです。

栄養士として、様々なライフステージの人と関わり合いながらになると、献立を考えたり食事の大切さを伝えたりすることに仕事のやりがいを感じているそうです。

栄養士資格を取得するための勉強も必要とのことでした。



3. お弁当で考える マイ・サイズ・ランチ

自分のライフステージに合わせた弁当の作り方について学びました。受講生たちは、体格や年齢、1日の運動量などから摂取すべきエネルギー量や栄養について考え、自分にふさわしい容量の弁当箱を選びました。

また、主菜や副菜、主食の栄養バランスを考えて作られた品目を弁当箱に詰めるところを実演していただくことで、受講生たちは、弁当作りへの意欲を持つことができました。



4. まとめ

講座の最後に、講師の先生から、「人は、一生食事をし続けるので、栄養士の仕事は、他者のライフステージのあらゆる場面に関わりのある仕事です。栄養士や管理栄養士は、栄養バランスを考えた食事で人を健康にすることで、その人を幸せにするお仕事です。」と、お話をいただきました。

受講生たちの心に大きく響いていたようで、皆うなずきながら熱心に聞いていました。

5. 児童生徒の感想紹介

- 今回の講座で、栄養士のお仕事や、人によってメニューや、かたさなどが変わること、お弁当の詰め方などを学ぶことができました。また、栄養士になるための勉強や講師の先生が、なぜ栄養士を目指したかなどを聞くことができ、参考になりました。

(上杉山通小 6年生)

「看護師の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 佐々木 周人 先生, 赤坂 佳乃 先生, 浅田 真奈美 先生
〔所属〕 仙台厚生病院

■ 参加人数 28 人

講座担当者 雪田 めぐみ

仙台厚生病院で看護師の仕事をしている佐々木周人先生, 赤坂佳乃先生, 浅田真奈美先生をお迎えし, 実際にナース服を着用したり, 手洗い練習や患者さんを『見る』ワークなど, 看護師に必要な知識・経験だけでなく, 考え方や自分自身を整えることの大切さなど分かりやすくご講義頂きました。

1. 看護師のお仕事～チームとしての仕事と役割～

病院では, 看護師の他にもたくさんの人が関わっています。各々がチームとなり一人の患者さんのサポートをしていくので, 円滑にコミュニケーションを取ることも大切な能力の一つです。自己紹介を通して受講生の好きなものや好きなことを知ることによって緊張が和らぎ, 相手を知る, 自分を知ってもらうことが安心してチームを作る上でとても大切なのだという体験ができました。



2. 実際のお仕事体験～①患者さんを見る②手洗い練習③ガウンの着用～

【体験①】

受講生が看護師役となり, 体調不良の患者さんに観察や声がけをしました。『いつから症状がありますか?』と, 大切な情報を質問している姿が見られました。

【体験②】

普段通りの手洗いでどの程度洗い残しがあるかを, ライトに当てて確認しました。手洗いで感染対策を行う大切さを学びました。

【体験③】

手術に入る看護師が着用するガウンを実際に着用させていただきました。



3. 質疑応答から

- Q. 看護師として働いていて嬉しかったことはなんですか?
- A. 関わった患者さんがどんどん元気に回復して行って, 「ありがとう」と言われたときに嬉しさを感じます。

4. まとめ

看護師は患者さんの支援の他, チームとして病院で働く仲間のサポート, 日々更新される情報や知識の更新のための勉強も常に必要な仕事の一つです。生死に関わる責任もありますが, 人の役に立つ直接的な仕事の一つであること, そして自分自身の心や身体を大切にしていくこともとても大切です。子どもたちの質問も大変活発で「看護とは何か?」という本質的な質問も飛び交う意義のある時間となりました。

5. 児童生徒の感想紹介

- 看護師という仕事は改めて「人生」と向き合う仕事だと思いました。
(将監中央小 6年生)
- 今回の話でさらに看護師になりたいくなりました。
(岩切小 6年生)

「アナウンサーの仕事」活動紹介

- 講師：〔氏名〕 渡辺 祥子 先生
〔所属〕 フリーアナウンサー・朗読家

■ 参加人数 26 人

講座担当者 近江 洋子

本講座では、司会やラジオパーソナリティ、朗読家、雑誌の編集長など「言葉で情報を伝える仕事」の分野において、多方面でご活躍されている渡辺祥子先生を講師にお迎えしました。仕事の内容や働くこと、言葉の大切さなどについて、これまでのご経験をもとに丁寧に且つ力強く受講生たちに伝えていただきました。

1. アナウンサーの仕事について

アナウンサーの仕事は「声の言葉で情報を伝える仕事」であること、アナウンサーになって良かったことは「言葉の力を知った」ことであると、お話しいただきました。

実際にプロの朗読家による「百羽の鶴」の朗読を通して、受講生たちは「言葉の力」を実感していました。

「小学生の頃は、話すことが上手ではなかった。」との意外なお話に、受講生たちは驚きながらも「好きな仕事に就くために自分も頑張りたい。」と思いを高めていました。



2. 発声練習・原稿読みに挑戦！

相手に分かりやすく伝えるためには、呼吸法や声のコントロール、アクセント、イントネーションに気を付けることを発声練習を通して学びました。

また、原稿読みの際には、先生から一人ひとりに丁寧なアドバイスをいただき、原稿読みのコツを掴みました。

受講生たちは、休憩時間にも、アクセント辞典を見せてもらいながら、先生と言葉や伝え方について熱心に語り合っていました。



3. 質疑応答から

Q. 地震の時などに、避難の呼び掛けを冷静に行っているアナウンサーの方は、すごいなと思いました。なぜ冷静でいられるのですか？

A. アナウンサーとして責任感を持って仕事に取り組んでいるからです。皆さんも学校で地震があれば、高学年として責任強く、低学年の子を励ますと思いますよ。

4. まとめ

「言葉は、生きる力を引き出すが、諸刃の剣でもある」
「言葉を大切にすることは、周りを大切にすること、自分を大切にすることにつながる」
「夢とは、自分の背中を押し、自分を輝かせてくれるもの」
「働くとは、傍を楽にすること、そして自分も楽になること」
先生から伝えられた言葉は、受講生たちの心に深く染み入る宝物となっていました。

5. 児童生徒の感想紹介

○ 今までアナウンサーは、声を出して情報を伝える仕事だと思っていたが、今日の講座で、アナウンサーは、声を相手に「分かりやすく」伝える仕事だと分かった。言葉には、相手を傷つける言葉があることも分かった。仕事は相手が笑顔になって、自分も笑顔になるのが、いい仕事だと思った。
(大野田小5年生)

「プロスポーツ選手の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 上山 真 先生
〔所属〕 株式会社仙台89ERS

■ 参加人数 28 人

講座担当者 中村 恵

仙台89ERSバスケットボールU15チームヘッドコーチを務めている上山真先生をお迎えし、「プロスポーツに関わる仕事」について学びました。バスケットボールコーチとしての仕事内容をご説明いただき、上山先生からは職業に就くまでのご経験や仕事への思いをお話しいただきました。参加した受講生28名は、熱心に耳を傾けていました。

1. コーチとしての仕事～選手の目線に立って～

コーチとしての仕事は大きく3つあることを教えていただきました。
①バスケットボールの指導②学校を訪問してバスケットボールを広めること③選手を成長させるための一年間の計画作りの3つです。その日の練習計画やチームとしての年間計画を作成するだけでなく、選手をしっかりと見つめて、どう成長できるかを考え、選手一人ひとりの計画も立てるということを教えていただきました。また、バスケットボールの指導をする上で大切なことは、選手と同じ目線に立ち、一緒に考えながら課題を解決していくこととお話しされていました。



2. 将来と向き合う～好きだからこそ～

ももとはプロバスケットボール選手を目指していましたが、その中で二度の挫折を味わったこともお話しして下さいました。辛い経験をしてバスケットボールから離れることを考えなかったそうです。バスケットボールが好きだという気持ちがあるからこそ、毎日新しいことを学ぼうという意欲が湧いてくるし、コーチとして選手一人ひとりにしっかりと向き合っていきたいとお話しされていました。



3. 質疑応答から

- Q. どのくらい練習したらプロスポーツ選手になれますか。
- A. 好きだからこそ毎日続けることが大切だし、朝の時間や放課後の時間を有効に使って目標を持って練習することが大切です。
- Q. 何才からプロスポーツ選手になれますか。
- A. 14歳でプロ選手になった人もいます。みんなのこれからの取り組み次第でいくらでもチャンスはあります。だからこそ、今を大切に過ごしてください。

4. まとめ

上山先生から「好きだからこそ上手くもなれるし、学び続けようという気持ちも湧いてくる。そして忘れていけないのは、たくさんの人の支えがあってここに立てているということ。コーチは選手の人生を預かっています。その人生が素晴らしいものになるように努力を続けていきたい。」と熱くお話し下さいました。

5. 児童生徒の感想紹介

- 好きという気持ちが強いことが夢を達成するために必要なパワーだということが分かりました。
(富沢小 5年生)
- 働くことは人の人生に関わることだと分かりました。働くってことはお金を稼ぐだけではなく、ものすごく大変だと気付きました。
(柳生小 5年生)

「音楽演奏家の仕事」活動紹介

- 講師：〔氏名〕 山本 純 先生
〔所属〕 フリーチェロ演奏者

■ 参加人数 18 人

講座担当者 中谷 武司

40年勤めた「仙台フィルハーモニー管弦楽団」を2023年3月に定年により退団。フリー奏者という新しい立場で演奏活動を続けています。最近、復興支援コンサートに積極的に参加しており、シャンソンやジャズなどのポップス、演劇など、より多彩な演奏活動を展開するだけでなく、たくさんの演奏者を育てています。

1. チェロの演奏を聴いてみよう

チェロで奏でる音楽を聴かせていただきました。
「アベマリア」や「白鳥」などの有名な曲から、リズムが独特な曲など、心がゆったり穏やかになったり、音を楽しむことができたりする演奏をしていただきました。

休憩時間にはチェロを実際に弾いたり、弾き方を教えてもらったりと、生き生きと子どもたちが目を輝かせて弾いていたのが印象的でした。



2. 演奏家になるために大切なこと

音楽家になる方法はたくさんあり、セオリーとしては音楽大学に行き、そこから楽団に入るのが一番なりやすいそうです。そのほか、「ソリスト」や「フリーの演奏家」など、他の道もあることも教えてもらいました。

忘れてはいけないことは「目標に向かって積極的に行動すること」や「降ってくるチャンスを逃がさないこと」、音楽家になりたいという「志」が大切であることを力説していただきました。



3. 質疑応答から

Q. 音楽家になるためにはどんなことをしたら良いですか？

A. 音楽大学に入ったり、楽団に入ることも大切ですが、音楽を楽しむことを忘れないでほしいと思います。

Q. 音楽をやっていて大変だったり、辛かったりしたことはありますか？

A. 特になかったです。練習をたくさんしたり、みんなで息を合わせることは大変ですが、それも楽しんでいました。

4. まとめ

音楽家は人を楽しませる職業であることが分かりました。

音楽家になる方法はたくさんあり、音楽家になりたいという「志」が大切であることを教えていただきました。

チェロの演奏は心が穏やかになったり、音を楽しむことができたりと「音を感じる」ことができる素晴らしい楽器であることが分かりました。

5. 児童生徒の感想紹介

○ 音楽の凄さ、大切さが分かりました。将来、音楽に関わる仕事につきたいです。

(寺岡小 5年生)

○ 失敗することもあるかもしれないけど、あきらめなくて演奏し続けることが大事だと教わったことが印象的でした。

(聖ドミニコ小 6年生)

「建築家の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 犬飼崇典 先生、本間亜門 先生、佐々木結 先生、
谷米匠太 先生、江田紳輔 先生

〔所属〕 (株) 関・空間設計

■ 参加人数 46 人

講座担当者 及川 紘子

(株) 関・空間設計は、アエルや仙台市立四郎丸小学校など、私たちの身近にある有名な建物の設計・建築をしている会社です。今回は5名の講師の方から、建築の楽しさや難しさ、そして仕事で大切なことについてお話いただきました。

1. 楽しいケンチク・建築家の仕事

はじめに、デザインのユニークな建物等についてクイズ形式で紹介してもらいました。「世界にはたくさん素敵な建築がある。自分がよいな、と思う建築を探しに行ってみよう。」という先生の問い掛けで、子どもたちの建築に対する世界が広がったようです。その後、講師の先生方が実際に携わった「四郎丸小学校」の設計から完成までの流れを教わりました。どんな小学校にするのか、学校の先生方や地域の方と一緒に考えて、何度も工事担当者や市役所職員と打合せを重ねたりして、4年の歳月をかけて完成したことに驚きの声が上がりました。



2. 体験実習

自分が「いいな!」と感じる空間がどのくらいの大きさなのか、身の回りの大きさを知ることが「かっこいい建築家」になる第一歩と教わりました。そこで、グループごとに自分たちの体の大きさを使って様々な物の長さを測ってみました。まず、自分たちの手のひらの大きさや腕を伸ばした大きさなどを測りました。次にその大きさを活用し、机の長さやバトミントンコートなどの長さ等を測りました。声を掛け合いながら、工夫して測る姿が見られました。体験を通して、建築家に必要な大きさの感覚を実感することができました。



3. 質疑応答から

- Q. どんな思いで建物の設計をしていますか?
- A. 建築にはいろいろな人が関わっています。そのため、いろいろな人の意見を聞くことを大切にしています。
- Q. 自分で設計した建物が完成したときは、どんな気持ちですか?
- A. 自分が考えた建物をお客さんに引き渡すときは、我が子を送り出すような気持ちです。うれしいですが、ちょっとさびしい気持ちもあります。

4. まとめ

建築には、完成した建物だけでなく、その建物を使ってくれる人や、周りの環境全てが含まれていると考えています。そのため、建築は一人でできるものではありません。たくさんの人と関わることや、社会との関わりを考えることが大切です。そして、その関わった皆さんが喜んでくれることが、働くことの意義だと思います。今日の体験を大切に、これからも建築に興味を持ってほしいです。

5. 児童生徒の感想紹介

- 建築家は間取りを設計するだけかと思っていましたが、もっとすることがあって、思っていたより奥が深かったです。(富沢小 5年生)
- 建築家になりたいという気持ちがより強くなりました。将来私も建築家になって、関・空間設計さんに負けないような建築ができるようになりたいです。(栗生小 6年生)

「パン屋の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 遠藤 裕紀 先生、小竹 涼佑 先生、齊藤 菜々 先生
〔所属〕 株式会社パンセ

■ 参加人数 26 人

講座担当者 加藤 徳明

株式会社パンセより3人の先生方をお招きし、私たちの食生活にとっても身近なパンについて、経営、販売、生産のそれぞれの視点から実際の仕事の内容や夢を熱く語っていただきました。また、最後に子どもたちが実際にパン作りの一部を体験しました。

1. パン屋の仕事いろいろ

パンセは、県内12店舗で生産、販売しています。それぞれの店舗では、スタッフの皆さんが話し合い、アイデアを出し合って商品や名称、配置場所、宣伝方法等を決定しています。

お客様が「笑顔になる」ための工夫について、いろいろな視点からお話を聞くことができました。



2. グルテンを取り出してみよう

子どもたち一人一人に小麦粉が入ったボウルが配付されました。戸惑う子どもたちの前で先生が小麦粉を練ってみせると、あっという間にボール状に固まりました。子どもたちはなかなか丸く固まらず悪戦苦闘していました。固まったものを水の中でもんでみると、ゆで卵の黄身のような粒が現れました。パンを作るための成分「グルテン」だとわかり、みんな驚いていました。



3. 質疑応答から

Q. パン屋で働くきっかけは何ですか。

A. 元々パンが好きだったということに加え、パンを作る姿がかっこいいと思っていたからです。作っているうちに楽しくなってきました。
パンを作る仕込みのために、朝の4～5時から働いていますが、お客さんに喜んでもらえるように努力しています。

4. まとめ

「お客様にどうやったら喜んでもらえるか、地域社会に貢献できることは何か、ということを考えながら働いています。」「いろいろな仕事を見てほしい。その中から好きなこと、やりたいことを見つけてほしい。そのためにも、今は勉強を頑張ってもらいたい。」と教えていただきました。

5. 児童生徒の感想紹介

- パン屋さんは4工程の作り方があって、一つ一つ難しい作業だと思いました。また、陰で努力されて、その努力が積み重なって仕事ができているんだ と思いました。(高砂中 2年生)
- 来年も参加したくなかったし、パン屋の仕事の忙しさがわかりました。家でもパンを作りたいくなりました。(古城小 5年生)

「動物園飼育員の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 元山 弥生 先生

〔所属〕 仙台市八木山動物公園 飼育展示課

■ 参加人数 34 人

講座担当者 峯 亮

動物園で仕事をする動物園飼育員の仕事について、仙台市八木山動物公園の元山 弥生先生をお招きし、動物園飼育員の一日の仕事や動物の飼育員になる方法などの経験を通して、「働くとは」ということを考えました。

1. 動物園飼育員の一日

動物園飼育員の一日の仕事は、朝のミーティングから始まることを学びました。掃除やエサの準備の仕事のほかに、イベントの実施や動物の爪の手入れ、飼育日記の記入などの特別な仕事もあることを教えていただきました。

さらに、動物園飼育員の役割は、①動物の健康管理、②動物の繁殖の計画、③動物の治療の補助、④動物のガイド、⑤SNSなどで情報の発信、など様々あることを学びました。



2. 動物たちの健康を守るために

動物たちの健康を守るために、安全に動物たちの検査をする方法を学びました。検査する方法は動物の種類によって異なり、麻酔をかける、捕まえる（保定）、トレーニングすることを教えていただきました。さらに、実際にハズバンダリートレーニング(※)している動画を紹介していただき、メリットとデメリットを教えていただきました。

また、人と動物の安全のために信頼関係を作ることが大切だということを教えていただきました。

※動物の健康診断をするとき、人間が健康診断をしやすいように、動物が檻の隙間から手を出したりするようにするトレーニング。



3. 質疑応答から

Q. この仕事をしていて、つらいこと、大変なことは何ですか。

A. 動物が死んでしまったときで、自分の知識や経験不足ではと思ってしまいます。また、体力が必要で、重い荷物を運ぶことも多いし、動物特有のにおいもきついです。

Q. この仕事をしていて、うれしいこと、楽しいことは何ですか。

A. 大好きな動物に間近で関わることや沢山の人とコミュニケーションが取れることです。また、掃除やイベント、ガイドなどでスキルアップを感じられた時です。

4. まとめ

働く理由は、お金のためや自分のしたいことをするなど人それぞれありますが、自分が働くときに何を大切にしたいかを考えることが大切です。動物園飼育員になるために知っておくべき、必要な勉強、大学と専門学校の違いなどを教えていただきました。また、仕事が人生の全てではありませんが、好きなことが多いと毎日楽しいので、自分のやりたいことを大切にしてほしいと話してくださいました。

5. 児童生徒の感想紹介

○ 動物一頭一頭のことを考えてエサを準備したり、健康チェックしたりしているのが、かっこいいなと思いました。 (小松島小 6年生)

○ 1日の仕事とか細かくわかってよかったです。飼育員になれるように勉強とかいっぱいがんばりたいと思いました。 (袋原中 1年生)

「警察の仕事」活動紹介

- 講師：〔氏名〕 清澤 直志 先生, 桜井 裕子 先生
〔所属〕 宮城県仙台東警察署

■ 参加人数 17 人

講座担当者 柴田 晃生

宮城県仙台東警察署の清澤直志先生と桜井裕子先生を講師としてお迎えし、一人前の警察官になるまでの過程と訓練方法を教えていただきました。体験活動では、指紋採取体験と、警察官の装備について実物を用いて説明していただきました。

1. 警察の仕事 ～警察官になるまで～（講話と映像）

公務員試験に合格した後に、警察学校に6か月～10か月入所し、1日中訓練を受けます。訓練は山岳救助訓練や警備訓練、武道など厳しいものですが、警察学校の日々は仲間と励まし合いながら人間としても成長する時間になるそうです。警察学校を卒業してから、日常の業務を遂行します。宮城県警の職員は約4300人。そのうち警察官は約3800人で、25の警察署、78の交番、130の駐在所で任務にあたります。警察は、市民が安心して暮らせるように犯罪の捜査をしたり被害者の相談を受けたりするなど、様々な形で市民の生活を危険から守っている事を教えて下さいました。



2. 警察の仕事体験 ～指紋採取と警察官の装備品～

粉末法の指紋採取では、ハケで余分な粉末を払い、指紋に粉を付着させて検出する方法を体験しました。子どもたちは、初めて行う指紋採取に緊張しながらも、テレビドラマで見かけたことのある作業を上手に行いながら、指紋採取に成功していました。また、警察官の耐刃チョッキや手錠、警棒等実際に触れさせていただきました。その重さや硬さを自分の手で感じ取り、それぞれの用途や使用上の注意について説明を受けました。ずっしりと重さのある装備品の数々に触れ、警察官の責務と使命感を改めて強く感じたようでした。



3. 質疑応答から

- Q. 装備品はそれぞれどのくらいの期間使うのですか。
- A. 壊れるなどしない限り、ずっと使います。手錠やヘルメットなどは最初に貸与されたものをそのまま20年ほど使っています。警棒はデザインが変わったので比較的新しいです。
- Q. 胸についているバッジのようなものは何ですか。
- A. 階級章といいます。巡査、巡査長、巡査部長・・・のように階級が変わると、階級章も変わります。見た目で階級が分かるようになっています。

4. まとめ

警察の仕事は、犯罪捜査等の「刑事」、防犯指導や非行防止等の「生活安全」、交通事故防止や交通事故の処理等の「交通」、市民の生活と安全を守る「地域警察」等、各部署に分かれています。基本は市民が安全・安心に暮らせるために混乱や危険から守る仕事です。一番のやりがいは、市民の方々に感謝の言葉をもらえた時で、「従事していて良かった」と感じるそうです。最後に、今日の受講生と将来一緒に仕事ができることを楽しみに、これからも人々のために頑張っていきたいとおっしゃっていました。

5. 児童生徒の感想紹介

- 実際に使っている道具がどのように役に立つのか分かった。警察学校での生活は大変そうだけど、将来のために頑張っていたのすごかった。（荒町小 6年生）
- 指紋を取ってみて思ったより粉が多くついてしまって難しいと思いました。これを事件の度にやっている鑑識の人は本当にすごいなと思いました。（人来田中 2年生）

「ロケットエンジン開発に関わる仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 島垣 満 先生

〔所属〕 宇宙航空研究開発機構 角田宇宙センター

■ 参加人数 32 人

講座担当者 雪田 めぐみ

ロケットエンジンの研究開発をしている島垣満先生をお迎えし、現在研究されている仕事の紹介や現在の日本における宇宙開発の実際、そして先生ご自身が職業を選ぶまでどのような道筋を辿られたのかご講義いただきました。参加した児童生徒が積極的に質問する姿も見られ、大変活発な講座となりました。

1. 宇宙に関わるお仕事

つくば宇宙センターや種子島宇宙センターの施設で行われている研究開発や、島垣先生が所属する角田宇宙センターで行われているロケットエンジンの研究についてご紹介頂きました。昨今はたくさんの民間企業も宇宙産業に参入していて、JAXAとの共同研究もされているそうです。受講生は初めから興味津々で、メモを取りながら熱心に受講していました。



2. 研究って何をしているの？～実は大切なのは国語力～

先生が所属する角田宇宙センターには研究者が多く在籍しており、研究以外に設計や試験準備のためのエンジンや部品の組み立て、センサーの組み付けなど多様な仕事があります。打上げ・月面離着陸を目的としたエンジンの部品を大学の先生と研究していたり、日本からアメリカまで1時間で到着できるエンジンの研究をしています。理数系の知識が必要と思われそうですが、研究を伝わりやすいようにまとめる力や発表する力、関係各所の人たちとのコミュニケーション力など「国語力」が非常に大切なのだそうです。島垣先生は働いてからそれを再認識され、意識的に読書をしているそうです。



3. 質疑応答から

Q. 学者としての心得はなんですか？

A. 失敗は常にあるので、謙虚にデータと向き合って思考することです。誰かと比較して落ち込むことをせず、自己受容することを意識しています。

4. まとめ

宇宙という言葉を知るとハードルが高いと感じたり、難しそうというイメージを持ったりするかもしれませんが、今ではたくさんの民間会社が宇宙の仕事に関わっています。どんどん宇宙を身近に感じてもらい、多くの子どもたちが将来の選択肢として宇宙に関わる仕事に興味を持ってほしいです。失敗を恐れずに、興味のある事についてとことん突き進み、また外の世界にも目を向けながら、楽しく学んでほしいです。

5. 児童生徒の感想紹介

○ ロケットエンジンにたくさんの人が関わっていてびっくりしました。

(立町小 5年生)

○ 私も間違いを恐れず色々なことにチャレンジしたいと思いました。

(仙台青陵中 1年生)

「スポーツトレーナーの仕事」活動紹介

- 講師：〔氏名〕 江刺 善之 先生
〔所属〕 アスリートジャパンEsashi

■ 参加人数 27 人

講座担当者 菅原 豪紀

宮城県内を中心にスポーツに関する指導を幅広く展開する「アスリートジャパンEsashi」の代表であり、かつての教え子がオリンピック選手にもなったことのある江刺善之さんに講師を務めていただきました。スポーツトレーナーに必要な資格や仕事内容などを、実技を交えながら分かりやすく、そして楽しく学ばせていただきました。

1. スポーツトレーナーとは

スポーツ選手が、目標とする試合で最高のパフォーマンスを発揮できるように、コンディションを整える手助けをするのがスポーツトレーナー。その仕事内容は、ストレッチやトレーニングの補助だけでなく、食事や睡眠に関することから、精神面のサポートに至るまで多岐に渡っており、「心・技・体」のバランスを整える役割を担っているということを教えていただきました。



2. スポーツトレーナーに“必要なもの”は

江刺さんが所持している資格をもとに、スポーツトレーナーになるために必要な資格を紹介していただきました。また“必要なもの”として、選手との関係を築く「コミュニケーション能力」や「学び続ける姿勢」の大切さを教えていただきました。その中で、「人を管理する仕事だから、自分で朝起きられない人はダメ」「みんなは今朝、ちゃんと自分で起きたよね」と問いかけられる場面があり、受講している子どもたちはドキッとした表情を浮かべていました。



3. 質疑応答から

- Q. 仕事をしていて、辛いことはありますか。またどんなときにやりがいを感じますか。
- A. 選手が怪我をしてしまったときは辛い。もっとこうしておけばよかったと反省のくり返しです。やりがいを感じるのは、選手からの良い結果報告を受けたとき。
- Q. 集中力を上げるためには、どんなことをすればいいですか。
- A. 自己暗示をすること。実は開会式の時にステージ上で私もやっていました。両手の指先を合わせて「できる！できる！」と強く願いを込める。ぜひやってみてください。

4. まとめ

「あなたのこれからに必要なキーワードを持ち帰ってほしい」という江刺さんのお話を受け、「スポーツは記憶力」「アントラージュ」「コアトレーニング」といった言葉を必死にメモをする子どもたちの姿がありました。選手という道以外にもスポーツに携わる仕事があるということを知ったことで、スポーツ好きの子どもたちにとっては将来の選択肢を増やす良いきっかけになったと思います。

5. 児童生徒の感想紹介

- 今のうちにやるべきこと、身につけるべきことが分かりました。講師の方の話が面白くて、内容が頭に入りやすかったです。 (中野中 3年生)
- スポーツトレーナーは、選手を優先し一番に考える仕事だということを学びました。今日やったストレッチは、家でもやってみたいと思います。 (国見小 5年生)

「医師の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 島村 弘宗 先生

〔所属〕 国立病院機構仙台医療センター

■ 参加人数 77 人（午前：43人 午後：34人）

講座担当者 石井 淳史

現在、仙台医療センターの総合外科部長を務められ、これまでにたくさんの患者さんの病気やけがを診て治してきた島村弘宗先生を講師にお迎えし、手術の縫合体験の実演などを交えながら、様々なお話を伺いました。

1. いろいろな医師がいる！

島村先生は最初に、患者さんを診て治す医師や病気の原因などを調べる研究者の医師、病気になるように対策を立てる医師など、一言で「医師」と言っても様々な仕事に携わる人がいて、それぞれの医師が自らの専門性を発揮して仕事に従事していることを教えてくださいました。

そして、それぞれの医師の具体的な仕事内容について、実際のレントゲン写真や記録映像などの資料を用いながら詳しく紹介してくださいました。



2. サッカー少年、お医者さんを目指す！

次に島村先生は、医師を目指したきっかけについて話してくださいました。

埼玉県で生まれた島村先生は、幼い頃からサッカーが大好きな少年でした。

中学2年生の時、ノーベル平和賞を受賞したドイツの医師・シュバイツァーの伝記を読んで、「自分もシュバイツァーを目指したい！」と思い、県内の進学校に入るために猛勉強をしました。

その後、仙台の東北大学医学部を卒業し、医師になりました。

始めは、子供が好きなので小児科医になりたかったそうです。しかし、病気に苦しんでいる子供の姿を見ることが辛かったので別な道を考え、「がんで苦しむ人々を助けたい」との思いから、外科医の道を選ばれたそうです。



3. まとめ

島村先生は講座に参加した子供たちに、「国際化社会の中で世界に目を向け、世界に通用する医師を目指してほしい」とアドバイスをされました。

また、今でもサッカーが大好きな先生は、宮城県サッカー協会の理事・医学委員長を務められ、仙台市医師会でも副会長として能登半島の被災地支援などで活躍されています。

『二兎追うものは一兎をも得ず』ということわざがありますが、最後に先生は、「私は、外科医・医師会・サッカーと、今でも三兎を追っています。みなさんも、自分の好きなことや将来の夢などが複数あるなら、どれもを頑張って追ってください」と話されました。

4. 児童生徒の感想紹介

- 今回の先生のお話を聞いて、より医師へのあこがれが強くなり、自分の将来に向けて一生懸命勉強しようと思います。（仙台二華中 2年生）
- 将来は、人を笑顔にするような医師になりたいです。（長町小 6年生）
- 自分が目指している夢について知ったことにより、これからの生活が変わっていくと思います。（仙台青陵中 1年生）

「新幹線乗務員の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕

前田亮, 坂本一馬, 千葉亮介, 安田俊晴, 岡山廣大, 佐藤俊英, 佐藤康裕,
戸村祐太, 井部幸治, 神貴奈, 伊藤浩, 高野順平, 別府重樹, 岡本大地,
平岩あかり, 安島仁美, 小松航介, 我妻学, 牧野元成, 長原諒, 佐山岳,
齋木剛規, 佐藤俊博, 佐藤卓磨

〔所属〕

東日本旅客鉄道株式会社 仙台新幹線運輸区・盛岡新幹線運輸区・
東北新幹線電力技術センター

■ 参加人数 75 人 (午前43人午後32人)

講座担当者

奥山 祥彦

日本国内の重要な交通手段である鉄道。その中でも世界に誇る技術で作られた新幹線。新幹線を実際に運転したり業務を行ったりしている方々にお話をうかがいました。今年度は午前、午後の開催となり、小学生向けの内容、中学生向けの内容それぞれ準備していただき、より多くの子どもたちへ仕事への思いや将来の夢について語っていただきました。

1. 小学生向けの講座

小学生向けグループでは、「新幹線運転士の仕事」、「新幹線車掌の仕事」、「POS(車内補充発行機)体験」の3つのブースに分かれ、時間で区切りながら移動し、それぞれのブースで講座を行いました。

新幹線運転士の仕事では、当日の天候や乗車人数を考え、速度をどのくらい出せば時間通りに到着するか常に考えながら運転しているという話をいただきました。

新幹線車掌の仕事では、様々な業務を行うので、確認するときは「目で見て指さして声出して」を徹底し、間違いのないようにしているのだそうです。



2. 中学生向けの講座

中学生向けのブースでは、初めに新幹線の仕事やJR東日本の会社についてクイズを交えて紹介の話がありました。その後、「高校卒業後と大学卒業後に入社した社員のお話」、「社内の制度を使ってキャリアを積んだ社員の話」、「POS(車内補充発行機)体験」の3つのブースに分かれ、時間で区切りながら移動し、それぞれのブースで講座を行いました。

高校卒業後に入社した方も、大学卒業後に入社した方もそれぞれ目標があり、入社後に努力を積み重ねていることが伝わりました。また、社内の制度を利用した方は、仕事を始めてからもっと学びたいと思い、社内の「国内大学在学制度」という、制度に挑戦し、仕事をしながら大学に通い見事卒業したというお話や、「キャリアデザイン休暇」という制度を使い、1年間語学留学を行ったというお話を聞きました。



3. 質疑応答から

Q. 寝坊してしまうことはありますか。

A. 普段から生活を整えて寝坊しないようにしています。朝起きるのが苦手な社員もいますが、寝る時間を工夫したり目覚まし時計をセットしたりして、勤務に遅れないようにしています。

Q. JRに就職するためには鉄道関係の学校に行った方がよいのですか。

A. 鉄道関係の学校でも鉄道についてたくさん学ぶことができますが、普通の学校でも就職している人はたくさんいます。学校の勉強をよく行うこと、部活や遊びをしっかりとって人間関係を大切にすることが大事だと思います。

4. まとめ

小学生向けの講座では仕事の内容を中心に、新幹線の仕事に限らず、将来の夢を持つことの大切さ、友達の夢を尊重してあげることの大切さを教えていただきました。また、中学生の講座では一人一人の社員をクローズアップし、生き方についてより詳しいお話を聞くことができました。それぞれの段階の子どもたちが人生について深く考えることのできた講座になりました。

5. 児童生徒の感想紹介

○ どの新幹線も運行することができるのに驚きました。多くの人を運ぶために部屋の温度や音量にも気を配って努力しているとわかりました。大変な仕事だけどやりがいのある仕事だと思いました。

(附属小 5年生)

○ 実際に乗務員の方の講座を聞くことができてうれしかったです。いろいろな大切なことを学ぶことができました。明確な目標を持つことが大事だと気づけました。

(大沢中 3年生)

「パイロットの仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 新田 慎也 先生, 小口 研一郎 先生

〔所属〕 アイベックスエアラインズ株式会社

■ 参加人数 23 人

講座担当者 中村 恵

アイベックスエアラインズ株式会社から2名の講師をお迎えし、パイロットの業務や、仕事のやりがいなどをお話しいただきました。ある想定の下、日本地図に自分たちで航路を書き出したり、パイロットが行っている航空身体検査を体験したりと、体験も交えながらあっという間に90分が経ったという印象でした。

1. パイロットの仕事～たくさんの人が関わって～

講義の冒頭は、「飛行機はなぜ飛ぶのか？」という質問から始まりました。さすがはパイロットを目指す子どもたちです。すぐに答えて、講師の方も驚いていました。パイロットの仕事には飛行機を操縦するだけではなく、飛行ルートをディスパッチャーと確認したり、CAとどこで揺れが激しくなるのかを打ち合わせたりするなどの細かい仕事があることを知りました。たくさんの人の支えがあって安全に飛べることをお話しいただきました。また、たくさんの人と関わるので「コミュニケーション力」の大切さについても教えていただきました。



2. 気分はまるでパイロット！～様々な体験を通して～

講義の中で様々な体験をさせてもらいました。ある想定の下、理想的な航路をペアで話し合ったり、実際に行っている身体検査を体験したりして参加者は終始目を輝かせて取り組みました。何と閉講式後には、パイロットが普段着用しているものと同じ制服を着させてもらいました。「肩に4本のラインが入ったものが機長の証」というお話もあり、特別な気分を味わえたようです。参加者のほとんどがパイロット志望ということもあり、みんな終始興奮した様子でした。



3. パイロットになるには？

パイロットになるための具体的な道筋を教えていただきました。高校を卒業してからは様々な方法でパイロットになれることを知ることができました。実際に、航空会社に入ってからでも勉強や訓練が必要であり、副操縦士から機長になるまでには大体10年かかると教えていただき、子どもたちからは「え～そんなに…」と驚きの声が聞こえてきました。ただパイロットになったからこそ見られる素敵な景色や無事に目的地にたどり着いた時の達成感などやりがいについても知ることができました。



4. まとめ

「パイロットになるためには、訓練と試験を何度もクリアする必要がある。」というお話の一方、「大変だけど、それを乗り越えた先に待っている達成感や、やりがいがとても大きな仕事。」というお話もあり、参加者は真剣な表情で、お二人の先生の話を聞いていました。何よりも目標に向かって頑張ること、やり続けることが人として大きな成長につながることを教えていただきました。

5. 児童生徒の感想紹介

- パイロットは飛行機を操縦するだけではなく、天候に応じて飛行ルートを考えたり、CAと打ち合わせしたりなど、たくさんの仕事があると分かった。(富沢中 1年生)
- パイロットの仕事について深く知ることができて良かったです。パイロットになりたいという気持ちがより強くなりました。(芦口小 6年生)

「キャビンアテンダントの仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 佐々木 美由貴 先生、木村 美早妃 先生

〔所属〕 アイベックスエアラインズ株式会社

■ 参加人数 28 人

講座担当者 高橋 大河

「キャビンアテンダントの仕事」では、アイベックスエアラインズ株式会社のキャビンアテンダント（CA）として日々接客業務にあたっている佐々木先生や、同社の木村先生を講師としてお迎えし、CAの仕事内容の講義や体験活動を交えながら教えていただきました。

1. キャビンアテンダントの仕事～コミュニケーション訓練～

乗務員同士のコミュニケーション訓練を行いました。想定した場面は、フライト中に機内で危険物を見つけた客室乗務員が、コックピットにいる機長へ内線を使って状況を伝える場面です。子どもたちは二人一組になり、相手の説明を聞いて、相手が持っているカードの内容を当てます。どのペアも「ハサミ！」とカードに描かれた物を当てることができました。最後に佐々木先生が行ったデモンストレーションではハサミの長さや柄の色、そのありかなど、特徴や状況を細かく伝達しており、子どもたちは自分の説明の仕方との違いに驚いていました。相手の顔が見えずジェスチャーも使えない場面で、言葉だけで正確に状況を説明することの難しさを体験することができました。



2. キャビンアテンダントの仕事～お客様の気持ちを考えながら接客しよう～

乗客に飲み物を提供する機内サービス体験を行いました。椅子と椅子の間の通路を機内の通路に見立て、全員に提供できるように気を付けながら乗客にカップを手渡していきます。相手の顔を見て話し掛けたり、カップを手渡す際に一声掛けたりと、相手の気持ちを考えながら接客することの大切さを学びました。乗客役の子どもたちはカップを受け取る際に「ありがとうございます。」と笑顔で受け取っていました。お客様を大切に思う気持ちが伝わっていたようです。



3. 質疑応答から

Q. 仕事をしていて大変なこと、楽しいことを教えてください。

A. 勤務の時間が日によって違うため、体調管理が大変です。お客様に満足していただけたときや、日本各地へ行けることが楽しいですね。

Q. 英語のスキルは必要ですか。

A. 必要です。お客様へのご案内に英語も使います。最近では、中国からのお客様が多いと感じています。外国語のスキルは大切だと思います。

4. まとめ

今回の講座には、将来CAになりたい子や実際にCAに接客してもらった経験のある子など、CAに憧れを抱く子どもたちが多数参加し、どの子も佐々木先生の話真剣に聞いていました。質疑応答の時間以外にも、質問をするために先生の前で列ができるほどです。佐々木先生からは、今回の講座で学んだことをこれからの生活や社会に出てから生かしてほしいと、子どもたちへ応援メッセージをいただきました。

5. 児童生徒の感想紹介

○ もっとCAになりたいと思いました。これから大変なことを乗り越えて、CAになりたいです。今日は自分がCAになれた気分になりました。ありがとうございました。（荒巻小 5年生）

○ CAになるための一般的な進路選択や航空会社の入社条件を具体的に教えていただき、自分の夢に一步近付いたような気がして嬉しかったです。（長町中 2年生）

「薬剤師の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 柝窪 克行 先生

〔所属〕 公益財団法人 仙台医療センター 仙台オープン病院

■ 参加人数 43 人

講座担当者 永島 功三

仙台オープン病院より薬剤部長の柝窪克行先生をお招きして、薬剤師のお仕事についてお話をいただきました。薬剤師に求められる資質や能力、薬剤師になるための進路や学習、日々の業務などについて教えていただきました。また実際に医薬品や医療器具を用いての体験活動を通して、医薬品を扱う際の心構えについてもお話いただきました。

1. 薬剤師の仕事 ～薬剤師とは？～

日々医療の現場で活躍し、幅広い役割を果たしている薬剤師はどのような仕事をしているのか教えていただきました。実際の病院内での様子や、調剤に使用する機械の動画を、子どもたちは熱心に見ていました。また、薬剤師になるための勉強や進路、大学での学習・実習・学生生活についても詳しく教えていただきました。また柝窪先生が薬剤師を目指すきっかけについてもお話いただき、参加者全員が真剣にメモを取っていました。



2. 薬剤師の仕事 ～医薬品の扱い方～

体験活動では、実際に医薬品・医療器具を用いて、扱い方や注意点を教えていただきました。最初は木べらを用いて軟こうを取り分け、表面をきれいに整える活動です。次は輸液バッグの準備です。力が必要な作業ですが、子どもたちはそれぞれ協力して、バッグを固定したり二人がかりで力を加えたり、工夫しながら輸液を開通させました。その後注射器と針を使って、生理用食塩液を輸液バッグに混注しました。柝窪先生が「薬剤師は日々同じことをする慎重さや集中力が必要」と伝えられた通り、全員が真剣に取り組み、充実した体験活動になりました。



3. 質疑応答から

Q. 誤って薬の処方をしたときの対処について教えてください。

A. 主治医に相談し、患者さんに説明をします。誤った処方は生死に関わることもあります。そのため、薬を処方するときは、それぞれ誤りがないか慎重に調剤、監査し、ダブルチェックできちんと確認をしています。

※他にも年収について質問がありました。一般的な地方公務員の年収と比較してお話いただきましたが、『最後は本人の努力次第』との回答をいただきました。

4. まとめ

薬剤師の適性として、①理科・算数が好きなこと、②集中力、③コミュニケーション能力が求められています。特に③のコミュニケーション能力について、薬剤師は患者さんとの信頼関係を構築したり、医師・看護師と相談したり指示を受けたりします。柝窪先生は『周囲の人に関心を向けることが大切』とおっしゃっていました。また薬剤師は、日々開発される新薬や治療法に対応するため、働きながら勉強し続けなければいけません。「高い専門性が要求されますが、薬剤師には大きな期待も高まっています。みなさんの夢をぜひかなえてください。」とメッセージをいただきました。

5. 児童生徒の感想紹介

- 薬剤師はたくさんの人を笑顔にする仕事だと思いました。私もがんを完全に治す薬を開発して、病気で困っている人を笑顔にしたいと思います。 (木町通小 5年生)
- 薬剤師の職場は病院勤務や調剤薬局だけでなく、学校や行政、卸売などもあることを知りました。将来に向けて、夢や考えがより深まりました。 (宮城野中 2年生)

「ゲームクリエイターの仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 志村 淳 先生

〔所属〕 学校法人 菅原学園 専門学校デジタルアーツ仙台 ゲームクリエイター科

■ 参加人数 44 人

講座担当 竹内 一馬, 寶森 公喜

現在専門学校のゲームクリエイター科で学生に指導され、業界ネットワークを多数お持ちの志村淳先生を講師としてお招きし、具体的かつ実践的なお話や、講師の先生が作ったゲームを実際に体験し、数学との関連性や、おすすめのプログラミング教育についてもご紹介いただきました。

1. ゲームを作る手順とチームの協力の大切さ

志村先生ご自身がプログラムを組んで作成された3Dゲームの紹介から始まり、子どもたちはスクリーンに釘付けでした。プログラムの設定数値を変更することでキャラクターやオブジェクトがどのように変わるかを、スクリーンで実際に確認しました。子どもたちは数値を変えることでどのような変化が起こるかを予想しながら、志村先生と楽しくやり取りしていました。また、実際にゲームを作るには、どんなゲームを作るか考えることから始まり、人気が出て売ればそれがお給料になるという現実も教えてくださいました。それぞれの専門性を生かして分業して進めることや、チームで協力して作成していくことの大切さなどについても教えていただき、子どもたちは主体的にメモをとっていました。

2. ゲームと数学の関わり

ゲーム内のキャラクターやオブジェクトの位置は、数学と関わっていて、X軸、Y軸、Z軸の3つの座標を使い、数値を調整することで立体的な世界を作り上げていることを教えてくださいました。ゲーム内の物体は、現実世界の物理法則に従って動いています。例えば地面で弾むボールをよりリアルに見せるために、跳ね返りや空中のスピードを調整してゲームに組み込むことで、よりリアルな動きを実現していることを、実際の画面を見ながら教えてくださいました。

3. 質疑応答から

- Q. ゲームの制作に掛かるお金はどれくらいですか？
A. ゲームにもよりますが数億円程度です。
Q. プログラミングのおすすめの学習ソフトやゲームエンジンなどを教えてください。
A. 「スクラッチ」「Unity」などはおすすめです。



4. まとめ

ゲームが作られるまでには、たくさんの人、時間、費用が掛かっていることを学びました。志村先生の話では、ゲームを作るにあたり6つの職種があり、それぞれプロデューサー、ディレクター、ゲームデザイン、グラフィック、プログラマー、サウンドの専門性を持った担当が分業して作成していることを教えてくださいました。また、実際のゲーム体験や操作を通して、ゲーム制作と数学の間に深い関係性があることに子どもたちは驚き、算数・数学の日々の学習の重要性を実感しました。

5. 児童生徒の感想紹介

- 受けて良かったと思いました。実際にこの仕事をされている先生から貴重なお話を聞いて、この仕事について一段とくわしく知ることができました。（栗生小 6年生）
○ ゲームを作る方法やゲームと数学の関係などについて学べて、とても楽しかったです。これからに生かしていきます。（東華中 3年生）

「天文台の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 細谷 直斗 先生
〔所属〕 仙台市天文台 企画交流係

■ 参加人数 25 人 講座担当者 丹治 重廣

仙台市天文台 企画交流係の細谷直斗先生を講師にお迎えし、前半は天文の仕事に就くまでの経緯、天文台の仕事の説明とその魅力、やり甲斐についてお話をいただき、後半は「太陽の黒点」の観測結果から研究分析の体験ができ、解き明かすという天文学の醍醐味の入口を学ぶことができた講座でした。

1. 天文台の仕事～なぜ天文台の仕事に…天文台ってどんな施設？

ご自身の将来の夢の変遷から天文学への道を歩まれてきたこと、学んできたこと等について、具体的にお話いただきました。小学生時代の夢を実現し、昨年天文台職員になったそうです。

その後、仙台市天文台について、歴史、運営組織、具体的な仕事内容（プラネタリウム、展示室、望遠鏡、観望会等）、そしてご自身の担当業務（大学・関係機関連携、天文情報提供、資料収集等）について教えていただきました。お客様からの質問に対して大事にしていることが「間違ったことは言わない！」と聞いて、みんなうなづいて聞いていました。



2. 天文台の仕事～観測研究体験 天文台の役割とご自身の思い

観測研究のお話から始まりました。現在は、望遠鏡を覗くのではなく、望遠鏡を通してPCにデータを記録していき、それを整理、分析していくことで観測研究が進められているそうです。

その後、仙台市天文台の黒点観測した2013年からのデータを一人一人に貸していただき、それを集計表に各自整理しました。最後に、先生が各自のデータを折れ線グラフに書き入れて、グラフを完成させ、黒点の周期の法則性がそこから分かるかを実体験しました。グラフから法則性が見えてきて、納得の表情が見えました。最後に、ご自身の思いを伝えていただき素敵な時間になりました！

3. 質疑応答から

Q. メディア制作業務とは、どんな仕事ですか？

A. 専門の方が一人いらして、例えば、イベントがあるときに、天文台として必要なポスターや掲示物、印刷物などを作る仕事をお願いしています。

Q. 今、仙台市天文台で開催中のイベントはありますか？

A. 仙台市野草園とのコラボの企画が、現在進行中です。プラネタリウムを使って大学とコラボしたイベント等もしてきましたが、HPやソラリストを参考にしてみてください。

4. まとめ

天文台の仕事を、「星や宇宙についての知識や現象を調べる」、「調べた内容を理解し、整理する」、「わかりやすく言い換えて、市民の皆さんに発信する」と考え、仙台市天文台では、日常と天文を結びつけ宇宙を身近にする工夫をしながら全員で頑張っているそうです。そして、天文台で働くのに必要なことは、天文や宇宙の知識、理科や数学の知識、コミュニケーション能力はもちろんですが、やはり「星や宇宙が好きという気持ちが、間違いなく一番大切です！」という子どもたちへのメッセージをいただきました。

5. 児童生徒の感想紹介

○ 最後に「好き」は大切だというお話を聞かせてもらって、すごく感動して、好きと胸を張って言えるような好きなことやものを見つけようと思った。（桜丘小 5年生）

○ 「どうすればなれるのか」「どんな仕事なのか」をしっかりと教えてもらえたので、とてもいい体験でした。実際に研究もできたのが良かったです。（八木山南小 5年生）

○ 自分の全然知らないお仕事もあり、以前より更に興味がわいた。特に講座で話していた「好きを信じて突き進むことが大切」という言葉が印象的で、自分の将来にも活かしていきたいと思った。自分は星や宇宙に興味があるだけで知識がないからこの会に出ているのか不安だったけれど、出席して良かったと本当に思う。（七郷中 2年生）

「歯科医師の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 西原 大輔 先生、平田 政嗣 先生

〔所属〕 一般社団法人 仙台歯科医師会

■ 参加人数 13 人

講座担当者 大場 浩太郎

仙台で歯科医院を開業されている、西原先生、平田先生を講師にお迎えしました。歯科医師に関する体験活動や、先生の話聞くことを通して、将来への夢や希望を持たせるとともに、職業や働くことへの理解を深めることのできる講座でした。

1. 【体験実習】歯科医師の仕事を体験しよう

① 歯の治療をしてみよう！

歯科医の仕事内容について、説明を受けた後、実際に虫歯の治療体験を行いました。歯の模型に『レジン』を詰め、硬化するライトを照射し、治療する体験を行いました。

② 型を取って模型を作ろう！

あごの模型の型を取り、石こうで模型を作る体験をしました。専用の機械で練った型取りを、固まってしまう前に、素早くあごの模型に被せます。そこへ石膏を流し込むと模型の完成です。



2. 【講話】歯科医師になるために

歯科医師になるためには、専門の大学で学ばなくてはなりません。歯科医師になるための大学の数は少なく、そこで6年間勉強をする必要があります。歯科医師になることがゴールではなく、どのような歯科医師を目指すのかという夢や働くことの意味を考えることが大切だと教えてくださいました。



3. 質疑応答から

Q. 歯医者の仕事をしていてやりがいを感じるのは、どんな時ですか。

A. 患者さんに痛い思いをさせることがあるにも関わらず、治療後に「ありがとう。」と感謝してもらえることです。

Q. 歯医者の仕事をしていて大変なことはどんなことですか。

A. いろいろな方が患者として来院すること。小さな子からお年寄りまで歯の様子も一人一人違います。その方たちの思いや将来を考えて、よりよい治療を考えています。

4. まとめ

先生も子どもの頃は将来の仕事を何にするか、悩むことがあったそうです。自分の得意なこと好きなことを考え、自分の進みたい道に向かって努力することが大切だと教えてくださいました。



5. 児童生徒の感想紹介

○ 体験は難しかったけど楽しかったです。先生の説明はとても分かりやすく、仕事の内容についてよく分かりました。
(高森小 6年生)

○ 歯科医師の仕事は、患者さんの一生に関わることができる重要な仕事だということが分かりました。
(台原中 2年生)

「ウェディングプランナーの仕事」活動紹介

- 講師： [氏名] 成塚 久美子 先生
■ アシスタント： [氏名] 佐藤 加奈 先生, 奥田 真以 先生
■ モデル, 美容： [氏名] 下山 虎太郎 先生, 小野寺 円 先生, 柴田 真歩 先生
■ 引率： [氏名] 折笠 美江 先生, 石川 孝紀 先生
[所属] みやぎブライダル協議会
■ 参加人数 35 人
- 講座担当者 土田 越之

みやぎブライダル協議会所属の成塚久美子先生（スカイパレスアソシエイツ）を講師に迎え、アシスタントの佐藤加奈先生と奥田真以先生（オーダーブライダルパレスへいあん）にサポートいただきながらウェディングプランナーの仕事について理解を深めることができました。体験学習では、三幸学園仙台ウェディング&ブライダル専門学校の先生方のご協力のもと、子どもたちは本番さながらの模擬挙式に参列することができました。

1. ウェディングプランナーの仕事

ウェディングプランナーの仕事は、新郎新婦にとって非常に大切な一日のお手伝いができる、とても幸せな仕事です。ゲストにお招きした方々に、自分たちの結婚式を通してどういう想いを届けたいのか、早いときには結婚式を行う一年前から新郎新婦と段取りを重ねて当日を迎えます。



2. 模擬挙式体験

講座会場を即席の挙式会場にして、模擬挙式の体験を行いました。子どもたち全員で協力して式場準備に取り掛かり、花嫁さんのアクセサリを装飾したり、新郎新婦へ「おめでとう」の気持ちを添えて花束を渡したりと、普段味わうことのできない貴重な体験をすることができました。



3. 質疑応答から

- Q. ウェディングプランナーになるにはどんな力が必要ですか。
A. 人の話をよく聞く力、コミュニケーション力が必要です。また、相手がどんな人で何を求めているのかを考えるなど、相手を知ろうとする気持ちも大切です。
- Q. ウェディングプランナーの仕事のやりがいは何ですか。
A. 結婚式で新郎新婦が参列された方をお見送りしている様子や表情から、新郎新婦の二人の希望が叶えられたことが伝わったときに仕事のやりがいを感じます。

4. まとめ

人生の中で自分のために友達や親戚などが集まる機会は、生まれたとき、結婚式、お葬式の3回しかなく、その中で結婚式だけが自分たちの想いをもって行うことができます。ウェディングプランナーの仕事は、「大切な人に想いを届ける機会、人生の節目をお手伝いすることができる素敵な仕事」だとお話がありました。そんな魅力が子どもたちにも伝わり、講座の最後に先生から「将来、ウェディングプランナーになってみたい人はいますか。」と尋ねられた際には、多くの子どもたちが元気よく手を挙げていました。

5. 児童生徒の感想紹介

- 今日ウェディングプランナーの話を聞いてまた一つ夢が増えました。色々な人の笑顔を見られる素敵な仕事はこれしかないと思いました。（鶴谷小 6年生）
- 今日のお話を聞いて、よりウェディングプランナーになりたいと思いました。ネットだけでは分からないこともあったのでとても勉強になりました。（中山中 1年生）

「自衛隊の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 今 勇介 先生, 今田 潤 先生, 佐々木 侑 先生
〔所属〕 自衛隊宮城地方協力本部

■ 参加人数 21 人

講座担当者 伊世 貴志

自衛隊の相談窓口であり広報活動等も行っている自衛隊協力本部から、3名の自衛官の方々をお招きし、前半は自衛隊の具体的な仕事内容について学びました。前半の最後には、ラップの演奏も披露してくれました。後半は、制服やリュックの試着やVRを用いた模擬体験など、様々な体験活動を通して理解を深めました。

1. 自衛隊の仕事とは

自衛隊の仕事には陸上、海上、航空の3つがあり、国の防衛や後方支援などの内容があります。自衛隊というと、災害時の支援、訓練など、体を張った力仕事というイメージがありますが、実際は、調理、撮影、スキー、看護、会計など、多種多様な特技を生かせる仕事です。吹奏楽をやっていたこともあり、音楽を生かした仕事もしていました。デザインの特技を生かしてワッペン制作もしています。様々なスキルを生かせることが自衛隊の仕事の特徴でもあります。



2. 様々な体験活動

後半は様々なブースを設け、自由に回りながら体験活動をしました。制服着用やドーラン体験では、本物の自衛隊の格好をしたり、顔にドーランという迷彩のメイクをして楽しんだりしていました。背のう・装具体験では、リュックやヘルメットなどを装着してその重さを実感していました。VR体験では、ゴーグルを着用して航空機からダイビングする様子などを味わいました。それ以外にも、階級バッジや、本物の南極の氷の展示などがあり、皆思い思いに、自衛官の気分を味わっていました。



3. 質疑応答から

- Q. どういう気持ちで、仕事をしていますか。辛い時に支えてくれる人はいますか。
- A. 自衛隊の仕事は仲間が多いので、仲間同士での人間的なつながりがとても楽しく、その楽しい気持ちを持って仕事に励んでいます。辛い時の支えは、やはり家族です。
- Q. 任務以外で楽しいことはありますか。
- A. 駐屯地には様々な施設があり、おいしい寿司屋などもあるので、みんなと飲み食いしている時も楽しいです。

4. まとめ

自衛隊の仕事は、国土や国民を守るという使命感が大切であり、それが一番のやりがいです。ただ、災害派遣など表立って活躍している時は、実は国民が悲しんでいる時でもあります。自分たちが目立たない時の方が平和な時です。普段は有事に備えた準備や訓練をし、国民が大変な時にこそ、自分たちが最後の砦なんだという誇りを持って仕事に励んでいます。

5. 児童生徒の感想紹介

- 自分は霞目駐屯地のUH-1やAH-1のパイロットを目指しています。今まで分らなかったことが学べたり体験できたりしてよかったです。(六郷小 5年生)
- 自衛隊というと戦地に行って戦うイメージがありましたが、シェフやカメラマンなど様々な面白い職種があることが分かりました。(第一中 2年生)

「弁護士の仕事」活動紹介

- 講師：〔氏名〕 桑原 和也 先生、 矢戸 敏二郎 先生
〔所属〕 弁護士法人 A.I. ステップ

■ 参加人数 42 人

講座担当者 遠藤 勝彦

「弁護士の仕事」では、お二人の弁護士の方から、学生時代のお話や法科大学院・司法試験、実際の仕事などについて教えていただきました。受講生を交えた寸劇や弁護士の1日についてまとめたプリントは、とても楽しくて分かりやすい内容であり、受講生の学びを深めました。

1. 弁護士への道

司法試験の受験資格や試験科目・内容、研修について、自身の経験を交えながら教えていただきました。司法試験に合格した後も1年間の研修があることや研修最後に5日間に及ぶ試験があることについて聞いた受講生は、驚きの表情を見せていました。また、一人一人が弁護士バッジに触れる貴重な体験をさせていただきました。



2. 弁護士の仕事

法律相談や裁判、示談交渉、書面作成、委員会活動などについて、寸劇を交えて説明していただきました。裁判の証人尋問のやりとりの場面では、真実を証明する弁護人を実演してくださいました。傍聴人となった受講生は、実際の裁判さながらの弁論を真剣な表情で聞いていました。また、休憩時間には、講師席へたくさんの受講生が質問に訪れていました。



3. 質疑応答から

- Q. 弁護士になるために、今から何を心がけるとよいですか？
- A. 司法試験の「論文試験」や司法修習の「二回試験」では、たくさんの文章を書かなければならないので、作文や感想文などいろいろな文章を書く勉強をするとよいです。
- Q. 今まで一番大変だったこと（相談）は何ですか？
- A. 遺産相続についての相談です。大昔に、相続されないままになっていた財産を親族に分配する際、多くの人へ確認をしなければなりませんでした。

4. まとめ

軽快で論理的なお話が、受講生を引き付けていました。また、「罪を犯した人が同じ過ちを繰り返さないように、罪を軽くして更生しやすくしてあげることも弁護士の仕事の一つ」というお話には、一人一人の被疑者に向き合う弁護士の誠実さが表れていました。「相談に来た人にとって良い未来になるように動くのが弁護士」という学びは、多くの受講生の大人のモデルになっていました。

5. 児童生徒の感想紹介

- 弁護士のことを面白く楽しく教えてくれて、とっても勉強になりました。とってもかっこよくて、弁護士は人を助けられる仕事だと実感しました。（木町通小 5年生）
- 相談に来た人の話をしっかりと聞き、そこから質問を重ね、正しい答えや相談に来た人にとって良い未来になるように動くのが弁護士だと学びました。（附属中 2年生）

「農家の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 平松 希望 先生
〔所属〕 一般社団法人 ReRoots

■ 参加人数 16 人

講座担当者 青沼 伸吾

学生時代、津波被害を受けた仙台市沿岸部の震災復興に関わり、現在もその地で農業に携わる平松先生をお招きしました。震災から現在に至るまでの活動の様子や思い、農業のやりがいや苦労についてお話いただき、最後は根と土がついたままの枝豆の株から、枝豆の収穫体験も行いました。

1. 震災から今まで、そしてこれから

平松先生は、学生時代に仙台市東部の被災地支援に携わりました。その中で、被害を受けても前向きに頑張る農家の方々と接し、「農家のかっこよさ」、「農家の面白さ」、そして「自然の力強さ」を感じ、農家を志したそうです。塩害で雑草すら生えなかった土地を整備し、その土地で農業を営んでいます。

現在、農業は高齢化や担い手不足など、様々な課題を抱えています。その中で、農業を発展させていくためには、「農家どうしの支え合い」や「消費者とのつながり」が重要だそうです。平松先生の農園の理念は「地域に根づき、支え合い、農業を継承する」ことです。



2. 枝豆を収穫しよう

今回、平松先生が当日の朝に収穫した枝豆（根と土がついたままの苗）を持ってきてくださいました。講座の後半は、全員で枝豆の収穫体験を行いました。

じっと目を凝らして見ると、洗うと取れてしまうため、売っているものにはあまり見られない枝豆の表面に細かな毛がたくさんついていること、根粒菌という根には小さな粒々がたくさんついていることなど、様々な発見がありました。平松先生の手際良く収穫する様子に驚きの声をあげながら、子どもたちは熱心に体験活動に取り組みました。



3. 質疑応答から

Q. 農家の一日のスケジュールを教えてください。

A. 季節にもよりますが、夏場は涼しい朝の5時台には収穫を始め、日中は袋詰めや納品作業、夕方に肥料管理などをしています。天候によっても大きく左右されます。

Q. 農業の楽しさや難しさは何ですか。

A. 収穫のことをイメージしながら作業することや、頑張った分だけ収穫につながるものが農業の楽しさです。一方、天候が予想できないこと、畑の面積が広いと、タヌキやカラスなど動物の被害を防ぎきれないことなど、難しさもあります。

4. まとめ

農業について漠然としたイメージを持っていた子どもたちは、講座を通して土づくりの大切さ、収穫に至るまでの難しさなどを具体的に知ることができました。また、震災から現在に至るまでの様子、農業を営む上で「人々のつながり」が重要であることなど、この講座に参加しないと分からなかったこともたくさんありました。講座を通して、農業に対する見方、そして食に対する見方が変わるきっかけを得た一日となりました。

5. 児童生徒の感想紹介

- 農家の仕事は助け合い、支え合うことがとても大事だと分かった。畑で野菜を育てるのは楽しいということが、初めて分かった。 (通町小 6年生)
- 津波が押し寄せた場所でも、農場としてたくさんの野菜が育てられていることに感動した。他の人との関わり合いが農業を支えていることが分かった。 (錦ヶ丘中 2年生)

「洋菓子職人の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 渡邊 靖水 先生
〔所属〕 (有) とびばいさ 甘座

■ 参加人数 26 人

講座担当者 鈴木 峻

仙台の老舗洋菓子店である「とびばいさ甘座」で工場長としてお勤めで、宮城県洋菓子協会の会長でもある渡邊靖水さんから、洋菓子職人としての働き方や、働く中での喜びについてお話していただきました。マジパンを使つての実演や、ケーキ等の写真、調理師免許状なども見せていただき、最後の質問タイムまで充実した講座となりました。

1. 洋菓子職人の仕事 ～「好き」を仕事に～

家業としてお父さんが始められた洋菓子店で、幼いときからご両親や先輩社員の姿を見て育った渡邊さんは、「ケーキが好き」という思いを大切に、お仕事を続けてこられました。ケーキ作りに必要な小麦粉や牛乳、砂糖などの材料には、それぞれに無数に種類があり、毎年のように変化を遂げているそうです。そのため、作り手によって様々な味があり、常に新しいことを学んでいるとお話されていました。



「好きを大切にしたい」、「好きであれば興味が広がる」、「好きに勝るものはない」という渡邊さんのメッセージに、子どもたちは真剣に聞き入っていました。

2. 洋菓子職人の仕事 ～マジパン細工～

講座の後半には、渡邊さんがマジパンを使つての実演をしてくださいました。子どもたちは、試食で味見をしたマジパンが、目の前で美しいバラに変わっていく様子を見学し、「かわいい!」や「おいしそう!」といった感想が聞かれました。「可愛くて美味しそうが最高」という渡邊さんの言葉に深くうなずいていました。その他にも、実際に渡邊さんが作られたマジパンの作品を展示していただき、精巧な作品を間近で見たり触れたりすることができました。



また、渡邊さんの仕事道具にも注目が集まり、特殊な素材のコックコートや、作業で使用するシルパットに関して質問がありました。どの質問にも丁寧にお答えいただきました。

3. 質疑応答から

Q. 今まで作ったケーキで一番難しかったのは、どんなケーキですか?

A. 切ったときに虹が見えるケーキを注文されたことがあります。クリームで7色を表現し完成させました。お客様の願いをお聞きし、喜んでいただけたので私も嬉しかったです。

Q. 働く上で気を付けていることは、どんなことですか?

A. 体力面です。暑い日も寒い日もありますし、力仕事も多いです。毎日を笑顔で過ごせるように気を付けています。自分自身もスタッフの健康もどちらも大切にしています。

4. まとめ

渡邊さんからは講座の様々な場面で子どもたちへのメッセージがあり、「1個のケーキにも多くの人たちが関わっている、その人たちの顔を思い浮かべてほしい。」や「夢が変わるのはいいこと。経験が増えれば変化もあるよ。」と話してくださいました。

憧れの職業の最前線で活躍されている渡邊さんの言葉は、子どもたちの心に深くしみ込んでいきました。

5. 児童生徒の感想紹介

- 思っていたよりもたくさんの人が関わって、たくさんの材料を使っていることが分かりました。私が仕事をする時には、靖水さんのように思いやりを大事にしたいです。(長町中 1年生)
- 見せてもらった写真がすごくきれいでした。作った人も受け取った人もみんなを笑顔にできるケーキやお菓子を作りたいです。(台原小 5年生)

「水族館飼育員の仕事」活動紹介

- 講師：〔氏名〕 佐藤 光優 先生, 鈴木 菜々里 先生
〔所属〕 (株) 仙台うみの杜水族館

■ 参加人数 午前45人 午後45人

講座担当者 内海 智

仙台うみの杜水族館の魚類チームの佐藤光優先生, パフォーマンスチームの鈴木菜々里先生を講師としてお迎えし, 飼育員の仕事やイルカパフォーマンスの訓練方法などについて, スライドの映像や実演を通して楽しく教えていただきました。

1. 飼育員の仕事について

飼育員の主な仕事, 3つの「じ」(調餌, 給餌, 掃除)があります。調餌では, 個々の生きものに合わせて餌の大きさを整えます。給餌では, 餌を与えながら健康チェック(食べ方, けがのチェック, 表情や様子の変化)をします。掃除では, 潜水用タンクを背負ったり, 重りを体に着けたりして, 大きな水槽の中を掃除します。子どもたちは, 実際のタンクを持ち上げたり, 背負ったりしてその重さを体験しました。



2. スタジアムライブ(パフォーマンス)について

スタジアムライブは, 生きものたちの魅力を感じてもらえるよう, 生き物(イルカやアシカ, バード)とパフォーマー(飼育員), ゲスト(お客様)が一体となって創り上げるパフォーマンスです。パフォーマンスに向けたトレーニングも大切です。特に, イルカにジャンプを教えるためには, ターゲットという道具を使って, 吻先(口先)でタッチすることを理解する初期トレーニングをしています。講座では, 講師がイルカ役となって, 実演を通して, ジャンプや回転ができるようになるためのトレーニング方法を教えていただきました。



3. 質疑応答から

- Q. 環境を整えるのが難しい深海の生き物はどのようにお世話するのですか?
- A. ゆっくり時間を掛けて, 少しずつ浅いところへ移すことで, 水圧の変化に慣れさせています。
- Q. 珍しい生きものの入手方法は何ですか?
- A. 販売会社や漁師さんから仕入れたり, 水族館同士のネットワークから入手することもあります。

4. まとめ

水族館飼育員の仕事は, 体力を必要とする仕事が多いし, 生きものの生死と向き合う事もあり精神的にきつい仕事でもあります。それでも, この仕事を続けていられるのは, 生きものの命を守る, 育てる, 責任を持つという気持ちを大切に, 自分の仕事に誇りとやりがいを感じているからという言葉が心に残りました。

5. 児童生徒の感想紹介

- イルカのトレーニング方法が工夫されていて, 水族館に行ったときに, サインなどもよく見てみたいと思いました。(宮城野小 6年生)
- 水族館の仕事を学んで, 一層生きもののことが大好きになりました。飼育員になるには, かなりの体力と知力が必要なことが分かりました(広瀬中 3年生)

「学校の先生の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 伏見 滋 先生、遠藤 勝彦 先生、三浦 絵衣実 先生
〔所属〕 東四郎丸小学校

■ 参加人数 26 人

講座担当者 早坂 孝一

伏見滋先生は4年連続、本講座の講師を担当してくださいました。講座前の打合せで、講師の先生方は、単に学校の先生の仕事についての「HOW TO」を教えるのではなく、将来の子どもたちの「人間力」を養う事に繋がりたいと、非常にモチベーションアップされていたらしやいました。「楽しく学ぶこと」「優しさを育むこと」を目指して取り組みたいと意気込んでいらっやいました。そして迎えた当日は、参加した子どもたちを6～7名のグループに分け、朗らかな伏見先生のお人柄と軽妙なテンポで、子どもたちの緊張を解すかのごとく、明るい雰囲気の中、講座がスタートしました。

1. 講座の内容①

学校と同じように、大きな「時間割表」を壁に掲示して約15分間隔で様々なお話をしていただきました。「算数、国語の時間」では、実際のテストと答案用紙を見ながら採点をする「赤ペン先生」の体験がありました。「ただ○×をつけるなら機械やAIでもできます。正しいか正しくないかだけではなく、子どもたちがもっと頑張りたいくなるようなコメントもつけてあげてください。」という、伏見先生のアドバイスがありました。はじめは戸惑いながらも、楽しみながら子どもたちは採点の体験をしていました。伏見先生から「花丸が上手ですね」と、褒められた子は喜んで、素晴らしい笑顔でした。



2. 講座の内容②

遠藤勝彦先生からは学校の先生は子どもたちと接する事だけでなく、地域の人や保護者、PTAとの繋がりが深く、チームとなってみんなを見守る優しい大人がいっぱいいるという事を子どもたちに伝えていました。その中で、私（早坂）もPTAやおやじの会の立場で「我が子だけではなく、みんなの『斜め上の大人』として、子どもたちの故郷をつくるために活動している」と伝えました。参観されていた山口委員長からも「地域力」という視点で、子どもたちへの励ましの言葉をいただきました。



三浦絵衣実先生からは、先生という仕事は、産休・育休が取得でき、女性はもちろん男性の先生も育休が取得できるというお話をいただきました。子どもを育てながら仕事をするこの尊さのお話は、子どもたちの心に響いていました。

3. まとめ

「学校の先生の仕事」全体をとおして、今年も参加者の優しさと笑顔に満ち溢れたすばらしい講座となりました。まず、参加した子どもたちの意欲と、礼儀正しさが素晴らしかったです。会場はすべての大人とジュニアリーダーの皆さん全員で、子どもたちの夢を応援している雰囲気に包まれていました。みんなが伏見先生独特の話術「伏見節」に、まともや引き込まれていました。この講座は生涯学習という視点や楽学プロジェクト本来の目的を見事に射貫いた、まさに「名物講座」の一つであると、また強く感じました。

4. 児童生徒の感想紹介

- 丸つけ体験が楽しかった。先生を「やること」の魅力を感じた。 (栗生小6年生)
- 他の学校の子たちと協力して取り組めた。また来たいです。 (七北田小5年生)
- 来てくださった方々全員が子どものことを本気で想ってくれている。 (二華中3年生)
- 先生は大変な仕事といわれているが、楽しいことが多いと感じた。 (五城中3年生)

「航空管制官の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 太内田 千恵 先生, 島田 哲也 先生

〔所属〕 国土交通省東京航空局 仙台空港事務所

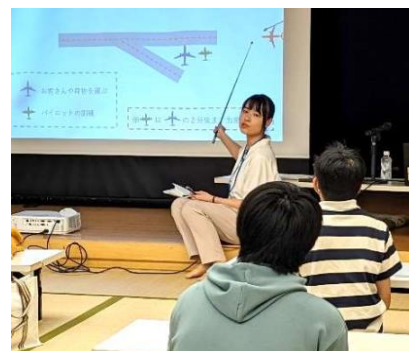
■ 参加人数 16 人

講座担当者 鎌倉 洋志

2名の先生は普段、仙台空港の管制塔で、航空機の離着陸の管理や上空での航空機の誘導などの仕事をしています。航空管制官の仕事について、「自動車が走る道路には信号があるけど、空にはないよね？」と身近なもので例えながら、わかりやすく、おもしろく、そして丁寧に、仕事の内容をお話いただきました。

1. 航空管制官ってなに？

はじめにお話しされた「航空管制官＝空の信号機」という例えが、子どもたちにずっと落ちたようでした。空港内や上空を「見る」、航空機が出発する「順番を決める」といった具体的な仕事内容が紹介されました。スライド上で実際に航空機を動かすシミュレーションがあったり、クイズ形式で離陸順を考えさせたりして、楽しみながら仕事の内容を理解することができました。



2. どうして私が航空管制官に？

ここでは、2名の先生より航空管制官を目指した理由をお話いただきました。「管制塔から飛行機を見ることができることに魅力を感じた。」「パイロットへの夢から方向転換し、航空管制官の道を選んだ。パイロットになった友達をサポートしたかった。」などそれぞれの志望理由があり、子どもたちは真剣な表情で、とても興味深そうに話を聴いていました。



3. 質疑応答から

Q. 英語はどれくらい話せた方が良いですか。

A. 管制官の仕事は英語がほとんどです。普段は航空英語を使いますが、緊急事態の時には、しっかりと聞き取れた方が対応できて良いと思います。

Q. これからの夢や目標はありますか。

A. 様々な空港で管制官の仕事をして、自分のスキルを磨いていきたいです。みんなが笑顔で、助け合って働ける職場を作りたいと思っています。

4. まとめ

仕事をする時には、「正解がない」ということ、また「目に見える成果が得られない」「緊張の連続である」というお話がありました。日頃から理由を考えた上で、自分で決断することが大切だということを、子どもたちはよく理解したようです。日々の過ごし方が未来につながることを学ぶことができました。

5. 児童生徒の感想紹介

○ とても大切な時間になりました。お二人が教えてくださったことを、今後の生活に活かしていきたいと思いました。ありがとうございました。(新田小 6年生)

○ 航空管制官の仕事は、ドラマで観て気になっていました。今回お話を聞いて、もっと詳しく知りたいと思いました。ありがとうございました。(折立中 3年生)

「保育士の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 田中 可奈子 先生、安住 涼夏 先生

〔所属〕 仙台市こども若者局 幼稚園・保育部運営支援課 運営係

■ 参加人数 24 人

講座担当者 村田 智朗

「保育士の仕事」では、仙台市こども若者局から田中先生、安住先生を講師に迎え、はじめに保育所でよく遊ぶ「じゃんけん列車」でアイスブレイクをし、保育士の仕事、保育所的一天を教えてくださいました。その後、赤ちゃんの人形を使って保育士体験をし、最後に講師からのメッセージをいただいて講座を閉じました。

1. 保育士の仕事

「保育所的一天」では、実際の子どものエピソードなども織り交ぜながら、それぞれの活動が「生きる力の基礎」となることをお話しいただきました。「保育士になるためには」では、学校の勉強はすべて役に立つということや、自分の好きなことや得意なことを増やすことが大事だから、今は様々なことに挑戦してくださいということを伝えていただきました。



2. 体験

赤ちゃん人形を使っの保育体験を行いました。エプロンを着て、哺乳瓶での授乳やおむつ交換、おんぶ体験をしました。「赤ちゃんって重いんだ!」「簡単そうに見えるけど難しくて大変だった」と実際の体験活動を通して、保育士の仕事内容についての理解を深めました。



3. 質疑応答から

Q. やりがいを感じるのはどんなときですか？

A. 子どもの成長を感じたときです。いろいろな行事のときに特に感じる人が多いです。また、卒園式で手紙をもらったときは本当に担任でよかったなと感じます。

Q. どんな思いで子どもたちと向き合っていますか？

A. 子どもが自分のことを好きになってのびのびと過ごせるようにしています。だから、好きなものや好きなことが増えるようにかかわっています。

4. まとめ

保育士は、子どもの命を預かる責任の重い仕事であるが、子どもの成長を自分のこと以上にうれしく感じることができ、自分も周りも笑顔にすることができる幸せな仕事だとお話しいただきました。最後に「興味のあることにはどんどん挑戦してほしい」というメッセージと「誰かの役に立てることが幸せ」という働く意義を伝えてくださいました。



5. 児童生徒の感想紹介

- おんぶしないと眠れない子供などいろいろな子がいるけれど、とってもかわいいことをしてくれる子もいて、私も保育士になりたいと思いました。（大野田小 5年生）
- ただ子どもと遊ぶだけではなく、話をしたり制作をしたりととても大変な仕事だと感じた。でもその分やりがいが大きくなるのだと学びました。（八木山中 2年生）

「WEBデザイナーの仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 漆畑 聖香 先生, 松谷 浩平 先生, 姉川 理子 先生
鈴木 拓真 先生, 吉田 真菜 先生, 木戸 里美 先生

〔所属〕 株式会社メンバーズ

■ 参加人数 22 人

講座担当者 伊世 貴志

東京に本社を置き2800名もの従業員を持つ大企業から、6人のクリエイターの先生方をお招きし、WEBデザイナーの仕事について学びました。WEBデザインはチームワークが大切というお話の通り、6人で分担して子供たちに寄り添い、デザインの魅力を体験等を通して伝えていただきました。

1. WEBデザイナーの仕事とは

WEB業界は進化と変化の激しい世界ですが、変化し続けることが厄介であると同時に一番面白いところです。デザイナーの他、ディレクターやコーダー（プログラミング担当）などが一つのチームを作って制作していきます。クライアントの要望を聞き、困っていることを解決するために、チームで対応していきます。大切なこととしては、常に化する世の中の最新の動向に敏感になり、学び、考え続けることです。



2. 体験活動「HPのバナーを作ろう！」

4, 5人でグループを組み、「仙台市のHPのバナーに、仙台七夕の広告を載せてほしい」という想定で、体験活動を行いました。

デザインを考えるには、why（目的は何か）、how（課題と解決策は何か）、what（どんな案なら解決できるか）を考えることが大切。七夕の宣伝といっても、優雅さを伝えるのか活気を伝えるのか。色やフォントは何か、配置はどうするか、グループで話し合いながらデザインし、制作しました。最後に代表者が上手にプレゼンし、どのグループもすばらしい広告を作ることができました。



3. 質疑応答から

Q. この仕事のやりがいは何ですか。

A. 自分の制作したものが世の中に公開されて、クライアントはもちろん、いろんな人に見てもらえた時です。また、それが良い評価だともっとうれしいです。

Q. たくさんアイデアを出すコツは何ですか。

A. 様々なことを経験することやいろいろな人と関わること、たくさんのデザインを見ることなどが刺激になって、ふとした時に良いアイデアとなって降りてきます。

4. まとめ

WEBの仕事に必要なスキルは常に変化しています。その時の「最新」を追うことや学び続けることが、WEBデザイナーになるために、WEBデザイナーであるために必要です。また、仕事をする上で大切なことは、自分の仕事に責任を持つことです。様々な職種のメンバーと一緒に働くので、それぞれが自分の分野に責任を持って100%の仕事をするのが大切です。

5. 児童生徒の感想紹介

○ WEBデザイナーの仕事は、「考える」ことが仕事の半分以上を占め、1人ではなく、様々な人と助け合って制作していることを知りました。（鶴巻小 5年生）

○ グループで協力して広告を作ることができてうれしかったです。また、他の学校の人たちと仲良くできてよかったです。（八軒中 1年生）

「映像クリエイターの仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 益田 健二郎 先生

〔所属〕 MASS事務所

■ 参加人数 42 人

講座担当者 庄司 祐太

「映像クリエイターの仕事」では、会社のPRや製品・サービスの紹介などの映像制作でご活躍されている益田健二郎先生を講師としてお迎えしました。4Kカメラでの撮影やドローン操縦などの体験を通して、仕事の内容や映像編集の流れ、動画クリエイターの苦労ややりがいなどについて教えていただきました。

1. 映像クリエイターの仕事とは

始めに、現在制作中の映像を見せていただきました。その映像には、クライアント（映像制作を依頼する人）に向けた相談事項が文字で示されており、クライアントの要望に基づいて、見る人がわくわくするような映像を創り出す仕事であることを教えていただきました。

次に、映像制作に実際に用いる撮影機材について説明していただきました。以前は、撮影機材が高価だったため、テレビ局などの会社でないと機材を揃えられなかったそうですが、近年は価格が下がってきたことで個人でも仕事に使えるようになったそうです。



2. ジンバル撮影体験、ドローン操縦体験

カメラを手持ちで撮影すると、撮影した映像が揺れてしまう場合があります。それを防ぐために、カメラをジンバルという装置に取り付けて撮影します。これにより、撮影者が前後左右に動いても、カメラは滑らかに動き、撮影した映像が揺れることはありません。参加者は、一人ずつジンバルを持ち、撮影体験をしました。どんなに動いても滑らかに動くカメラに驚いたり、長時間持って撮影することの大変さを実感したりしていました。また、ドローンの操縦体験もさせていただきました。

その後、撮影した映像を使って編集作業の様子を見せていただきました。軽快にPCを操作し、あっという間に動画が完成しました。プロ用の機材を揃えることで、待ち時間なくスムーズに編集できるそうです。



3. 質疑応答から

Q. 映像の編集で、大変なことは何ですか。

A. 動画の撮影にも、編集にもたくさんの時間が掛かることが大変です。しかし、自分が思い描いた通りに映像が仕上がったときは、他では味わえない達成感があります。

4. まとめ

「動画制作の世界は、めまぐるしい速さで技術が進化するので、常に最先端の技術を取り入れていく必要があります。また、映像には「スポーツ系」「ネイチャー系」「バラエティ系」など様々なジャンルがあります。自分の得意分野を見つけて、センスを磨いていくといいと思います。様々なことに進んで挑戦し『自分らしさ』をどんどん磨いていってほしいです。」と、参加者に温かな激励のメッセージをいただきました。

5. 児童生徒の感想紹介

- 今までテレビのCMをすぐに飛ばしていたけど、一つ一つにたくさんの手間がかかっていて大変だったのだなぁと思いました。（向陽台小 5年生）
- 映像には、たくさんの工夫が詰まっていることがわかりました。特に、見る人をわくわくさせることの大切さがわかりました。（袋原小 6年生）

「音響・照明の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 穂積 理人 先生、佐藤 琴音 先生
〔所属〕 株式会社東北共立

■ 参加人数 24 人

講座担当者 柴田 晃生

株式会社東北共立から穂積理人先生と佐藤琴音先生をお招きしてお話しいただきました。裏方として、ステージを見えない場所から支えている音響・照明の具体的な機材の配置や使い方を教えていただきました。途中、実際に音響や照明を調整する機材に触れさせていただき、多くの質問にもお答えいただきました。

1. 「音響・照明の業務内容」

音響や照明の機材を使いこなし、舞台やコンサートなどでの演出や技術的なサポートを行います。マイクやライトなどの機材は日々進歩しています。それらを用途に合わせて設置することで、全ての聴衆が良い響きで聞けるようにしたり、出演者の魅力を引き出すライティングをしたりします。音響では神経を使いながら音量や音質を調整していること。照明では演者の立ち位置によって角度をしっかりと調整したり使われるライトの種類や色を変えたりしているといった工夫や苦労をお話しいただきました。



2. 「体験活動」 ミキサーとスポットライトの操作体験

説明を受けた後には、実際に音響機材であるミキサーと、操作体験をさせていただきました。フェーダーと呼ばれるつまみを上下することで音を自在に操り、観客が心地よく聞えるように調整をしました。ピンスポットライト操作体験では、ステージ上の演者に光を当てて、舞台の演出に合わせ、演者を引き立たせるという照明の効果について体感することができました。



3. 質疑応答から

- Q. どんな時にこの仕事のやりがいを感じますか。
- A. お客様の「キャー！！」という歓声が聞こえた瞬間に、自分の仕事で喜んでもらえていることを実感するのでやりがいを感じます。
- Q. 仕事をしている上で一番気を付けていることは何ですか。
- A. 決められたタイミングで音や照明を出すことは当たり前で、それ以上に安全に気を付けています。高所ではヘルメットやハーネスを付け、事故のないようにしています。

4. まとめ

「この仕事に必要な知識や技術は現場で身に付けるものが多く、初めは失敗することもあるが、できるようになっていくと仕事のおもしろさを感じるようになる。」とお話しされました。最後に先生から「やっていく中でいろいろな人と出会い、新しいものが見えてくる。それぞれ夢中になれるものを見つけてほしい。」とエールを送っていただきました。

5. 児童生徒の感想紹介

- 私はバレエをやっていて照明さんや音響さんのお世話になっていますが、照明さんたちの気持ちや仕事が分かってよかったです。(広瀬小 6年)
- 音響は聞いている人にしっかり音を届けるためにいろんな機材を使って作業することが分かった。照明はいろんな機材を組み合わせで光らせるので少し難しそうだったけど楽しかった。今度イベントやライブに行くときは音響、照明を意識して見てみたい。(中田中 3年)

「花屋の仕事」活動紹介

- 講師：〔氏名〕 中村 真実子 先生、三浦 理恵 先生
〔所属〕 Garden Gotukola (ガーデン ゴッコラ)

■ 参加人数 20 人

講座担当者 沼倉 まゆみ

今年度、初めて講座を担当して下さることになった中村先生は、青葉区八幡町で一人で花屋を経営しています。アシスタントの三浦先生は、ゴッコラから定期的に花を購入していて、中村先生が大切にしていることをよくご存じの方です。中村先生が花屋の仕事を行うきっかけとなったこと、日々心がけていることなどについてお話し頂きました。

1. 花屋の仕事の紹介

一人で経営していることから、工夫していること、他店との違いなどいろいろとお話しされました。例えば、定期配達や予約販売を行っていること、また、商品を受け渡す日をあらかじめお客様と決めておくという具合に、好きな花屋を一人でも経営できるように考え、実行されていることを話されました。また、他店には花を保管する大きな冷蔵庫があるけれども、ゴッコラには無く、その代わり念入りに洗ったきれいなバケツに、丁寧に水切りをした花を入れ、花を長持ちさせるようにしているとのことでした。



2. 花屋になろう！

お客さんが求めていることを「花束で表現する」という体験をしました。まずは、お客さんになったつもりでカードにメッセージを書きました。次にシャッフルしたカードを一人ずつ引き、書かれているメッセージに合うように花を選び、花束を作りました。花束を作るという場面では、みんなすっかり花屋になりきっていました。思い思いの花束を作ることが出来て受講生たちはとても満足していた様子でした。



3. 質疑応答から

Q. 辛いことはどんなことですか。

A. 仕事の仕方が分からなかった頃、時間ばかりが過ぎてしまい辛かったです。

Q. お金は儲かりますか。

A. お金のために仕事をしているわけではなく、どうしたらみんなが喜んでくれるかを考えて仕事をしています。

4. まとめ

講座の最後に先生から大切な言葉を二つ頂きました。一つ目は、「お花を贈ることは、気持ちを贈ること」お客さんは自分の気持ちをお花と一緒にプレゼントしたいと思っています。お客さんの気持ちをしっかりと聞いて、心を込めて花束を作ってください。二つ目は、「夢を叶えるための大事なこと」お客さんの要望を叶えていたら、今の仕事の仕方に繋がりました。固定概念にとらわれることなく自分の夢に向かって頑張りたいと励ましの言葉を頂きました。ありがとうございました。

5. 児童生徒の感想紹介

○ お客さんの気持ちになって花を選ぶのは難しかったけど、とても楽しかったです。

もっといろんな花を選んで花束を作りたいです。

(川前小 6年生)

○ 大事なことは「人を喜ばせたい！」という気持ちとバケツの水換えということを知り

ました。沢山の人の笑顔にできる素敵な仕事だと思いました。

(八木山中 1年生)

「ファッションデザイナーの仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 飯岡智先生・久道優子先生

〔所属〕 宮城文化服装専門学校

■ 参加人数 19 人

講座担当者 菅原 浩江

宮城文化服装専門学校から飯岡智先生と久道優子先生を講師にお迎えして、ファッションデザイナーの仕事について学びました。

1. ファッションデザイナーの仕事とは？

服飾、ファッション分野のデザインを専門とする者をファッションデザイナーといい、デザイン画の制作、素材選定や縫製仕様書作成までを行い、実際に縫製をすることもあります。また、映画や舞台などにおける衣装を手掛けることを衣装デザイナーと呼びます。



2. デザイン発想に基づいた作品づくりにチャレンジ!!

1枚のデザイン画の洋服に自分で考えたオリジナルデザインを落とし込んでいく作業を実践しました。丸や四角など幾何学な形を組み合わせる基本のデザインを考えます。2色の色鉛筆を使い、限られた時間の中でサクサクと洋服のデザインが仕上がっていく様子は圧巻でした。



3. 質疑応答から

Q. デザイナーは誰でもなれますか？持っておいた方がいい資格などはありますか？

A. 特に資格の取得はありません。デザイナーは総合的な目線で商品をデザイン化することが求められます。そのため、コミュニケーション能力が必要とされる職業です。

4. まとめ

宮城文化服装専門学校の生徒さんが製作した作品を実際に間近で拝見することができて受講生の皆さんも感激しておりました。製作過程においては、限られた予算の中で創意工夫を重ねたそうです。中でも毛糸素材の花を作るのに時間がかかり大変だったとのこと。そのような、完成するまでの苦労話も聞くことができました。また、デザイナーの仕事は理屈ではなく感性であることも学びました。

5. 児童生徒の感想紹介

○ デザインを考えるときは、社会情勢や環境問題など、世の中にも目を向けているのが分かりました。また、さまざまな専門職の方々と手を組んで一着の服が完成することを知りました。

(宮城野中 1年生)

○ ファッションデザイナーという仕事にとってもあこがれがあったので、今回お話を聞けて良かったです。調べても分からない情報を知ることができました。さらにこの仕事につきたいという気持ちが高まりました。

(西多賀中 1年生)

「テレビ局の仕事」活動紹介

- 講師：〔氏名〕 古野 真也 先生
〔所属〕 t b c東北放送営業局テレビ部
- 参加人数 26 人

講座担当者 大場 俊宏

アナウンサーとしての経験談を交えながら、現在の営業局テレビ部としての仕事についてご講話いただきました。時折受講生に質問したり、やりとりをしたりしながら講座を進めていただいたことで、ライブ感のある講座となりました。受講生のつぶやきや疑問にすぐさま答えていただき、楽しく有意義な時間となりました。

1. 自己紹介

講師の古野先生自身について話を伺ったり、アナウンサーとして仕事をする古野さんの映像を見たりしました。大学を卒業するまで九州で過ごし、祖父からの影響でアナウンサーを目指すことになったことや、アナウンサーとして仙台市に来てからの生活や仕事について話していただきました。アナウンサーやテレビにかかわる仕事を目指すきっかけや古野先生のルーツについて知ることができました。受講する中学生は真剣な眼差しで話を聞いていました。



2. テレビについて

自分の知っている宮城県のテレビ局について質問がありました。中学生ということもあり、テレビ局の名前を知っている子が沢山いました。テレビ局をアルファベットで表す業界用語も出てきて、一層関心を引き付けられる子どもたちでした。また、好きな番組を聞かれた受講生はにこにこしながら次々と答えていました。番組名が挙がる度に頷いたり、共感したり、反応しながら話を聞く受講生でした。



3. テレビの営業について

古野先生はアナウンサーとして入社しましたが、経営に興味が出てきたそうで、現在は営業局テレビ部でお仕事をされています。そこで、ここでは放送の目的や役割について教えていただきました。また、テレビ制作に関わる部署は多岐に渡り、視聴者として見えている部分以外にも様々な仕事があるということを学びました。さらに、CM料金や視聴率についても学びました。難しい話でしたが、受講生はメモを取り、熱心に耳を傾けていました。



4. まとめ

最近放送されたサンドのぼんやり〜ぬTVを視聴してから「どんな人が働いているでしょう」と、古野先生から質問がありました。「アナウンサー」や「ディレクター」などの答えの他に、「音声」や「スタイリスト」など、テレビ制作の裏側まで想像力を働かせながら質問に答える受講生もいて、古野先生を驚かせる場面もありました。

5. 児童生徒の感想紹介

- テレビはたくさんの人が協力して番組を作っていると分かり、さらに興味を持ったので、将来テレビ局に入社できるようにたくさん勉強したいです。（南中山中 2年生）
- 1つのテレビを作るのにたくさんの人が関わっていることや、テレビを売るとはどういうことか知ることができました。すごく面白い授業をありがとうございました。

(仙台青陵中 1年生)

「和菓子職人の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 佐藤 眞守 先生

〔所属〕 和菓子一級技能士・製菓衛生士・職業訓練指導員

■ 参加人数 20 人

講座担当者 藤澤 茂和

「和菓子職人の仕事」では、創業明治12年、仙台の老舗和菓子司賣茶翁より佐藤眞守先生を講師にお迎えし、季節を五感で味わう和菓子づくりの魅力やそのための苦勞、和菓子の可能性や将来性について講話をいただきました。途中、実演を交えながら和菓子づくりの奥深さや楽しさを教えていただきました。

1. (講座の内容①)

目で見て、舌で味わって、口当たり・食感で季節を表現することができる和菓子の魅力やこれからの可能性について講話をしていただきました。「職人」としての覚悟、苦勞したことや苦勞の先に得られる喜びなど、自身の体験を基に子どもたちに思いを伝えていただきました。自分の「楽しい」を見付けて、その道を極めてほしいと励ましの言葉をいただきました。



2. (講座の内容②)

子どもでもできる和菓子づくりに挑戦しました。実演を見た後で作業に取り掛かりました。洗練された技術に食い入るように見ている子どもたちの姿が印象的でした。初めはぎこちない手つきでしたが、講師の先生の丁寧な指導を受け、次第にコツをつかんだようでした。後半は笑顔いっぱいの活動になりました。伝統的な技術に触れながら、伝え続けることの大切さや技術習得の奥深さ・難しさを感じる貴重な機会となりました。



3. 質疑応答から

Q. 和菓子の苦手な人向けの和菓子がありますか。

A. 素材にこだわった本当においしい和菓子を一度食べてほしいと思います。そうすることで苦手意識はなくなると思います。また、食べておいしいだけではなく、目で見て季節を感じたり、食感を楽しんだり、お茶会に参加をして人との関わりを深めたりして和菓子文化を堪能してほしいです。

4. まとめ

素材からお客様に提供する際のお皿まで、こだわりを持ち、楽しみながら和菓子と向き合ってきた経験を基に、一つの道を極めようとする大切さについてご講話いただきました。何かに興味を持って調べたり、真剣に悩んだりして好きなことや興味があることを見つけ、楽しみながら仕事についてほしいと励ましの言葉をいただきました。

5. 児童生徒の感想紹介

- 細かい技術が必要で難しかったですが、自分で作ったからこそよりおいしく感じられたし、とても貴重な経験ができました。(仙台青陵中 2年生)
- 実際に体験する時間が長くてとても楽しかったです。職人は楽しむことが一番大切だと聞いて、自分の好きなことを仕事にしたいと思いました。(宮城野中 2年生)

「仙台市ジュニアリーダー」活動紹介

■ 仙台市ジュニアリーダー（中学生・高校生） 44人

担当者 橋本 憲司, 村田 智朗

ジュニアリーダー（JL）とは、仙台市教育委員会の支援を受け、各市民センターを拠点として活動している中学生・高校生の青少年ボランティアです。

現在市内には33のジュニアリーダーサークルがあり、360人以上（令和6年7月現在）が登録しています。子ども会等の地域団体から要請を受け、地域行事の際に子どもたちが楽しめるゲームやレクリエーションを企画・運営するなどの活動を行っています。

1. 楽学プロジェクトでの活動内容

（1）参加者の誘導、受付・整列補助

ホールでの開会式に際して、参加者の受付や座席・トイレまでの誘導を行いました。開会式終了後には、迷わずに移動できるようにプラカードを掲げながら各会場まで案内を行いました。講座終了後には参加者が解散する際の整列や誘導補助、保護者への引き渡すまでの付き添いをしました。



（2）各講座の補助

ホールでは、全体に対して座りながらできる手遊びやクイズを行い参加者の緊張をほぐしました。各会場では、講座のはじめに簡単なレクリエーションでアイスブレイクをしました。講座中には、積極的にグループに入ったり、参加者に話しかけたりすることで、参加者同士・参加者と講師をつなぐ役割を担いました。



2. 参加したJLの感想

- 300人以上を相手にしたアイスブレイクは初めてでしたが、参加していた小学生が笑顔になってくれて良かったです。
- お手伝いだけでなく講座にも参加させていただきました。自分の興味のある内容だったこともあり、とても勉強になりました。

3. スタッフ（講師）の感想

参加者の受付・誘導からアイスブレイク、講座中の寄り添いまで、ジュニアリーダーの皆さんがいることで、自分の話に集中することができました。大人目線ではなく、参加者と同じ目線で接してくれていたのが、参加者も安心して過ごせていたように思います。

令和6年度 楽学プロジェクト委員名簿

	役職	氏名	所属
1	委員長	山口 哲男	楽学プロジェクト委員会
2	副委員長	遠藤 浩志	市名坂小学校
3	副委員長	久保木 潤子	楽学プロジェクト委員会
4	副委員長	岡本 浩行	楽学プロジェクト委員会
5	副委員長	山口 裕子	楽学プロジェクト委員会
6	委員	丹治 重廣	楽学プロジェクト委員会
7	委員	加藤 真由美	楽学プロジェクト委員会
8	委員	近江 麻江	楽学プロジェクト委員会
9	委員	菅原 浩江	楽学プロジェクト委員会
10	委員	針生 真由美	楽学プロジェクト委員会
11	委員	阿部 英男	楽学プロジェクト委員会
12	委員	牧田 雅至	吉成小学校PTA
13	委員	大曾根 学	新田小学校PTA
14	委員	雪田 めぐみ	沖野小学校PTA
15	委員	遠藤 佳奈子	西中田小学校PTA
16	委員	早坂 孝一	将監中学校PTA
17	委員	内海 智	北六番丁小学校
18	委員	土田 赳之	富沢小学校
19	委員	加藤 徳明	岩切中学校
20	委員	伊世 貴志	連坊小路小学校
21	委員	鈴木 峻	将監中央小学校
22	委員	橋本 憲司	生涯学習支援センター
23	委員	大場 俊宏	青葉区中央市民センター
24	委員	柴田 晃生	宮城野区中央市民センター
25	委員	奥山 祥彦	若林区中央市民センター
26	委員	中村 恵	太白区中央市民センター
27	委員	近江 洋子	泉区中央市民センター
28	委員	浅野 佑一	市民図書館
29	委員	菅原 豪紀	仙台市科学館
30	委員	阿部 智恵子	宮城野区中央市民センター(地区館)
31	委員	鹿野 由加里	宮城野区中央市民センター(地区館)
32	事務局	佐藤 陽介	学びの連携推進室
33	事務局	淀縄 ゆかり	学びの連携推進室
34	事務局	小幡 拓	生涯学習課
35	事務局	加藤 良樹	生涯学習課
36	事務局	細川 知子	生涯学習課
37	事務局	間宮 智也	生涯学習課
38	事務局	金光寺 智士	生涯学習課
39	事務局	黒田 涼子	生涯学習課



今年もありがとうございました。

【発行】 楽学プロジェクト委員会
(事務局) 仙台市教育委員会 生涯学習部 生涯学習課
〒980-0011 仙台市青葉区上杉一丁目5番12号
仙台市役所上杉分庁舎 10階
TEL 022-214-8887